



Walk in home プランにゃ〜

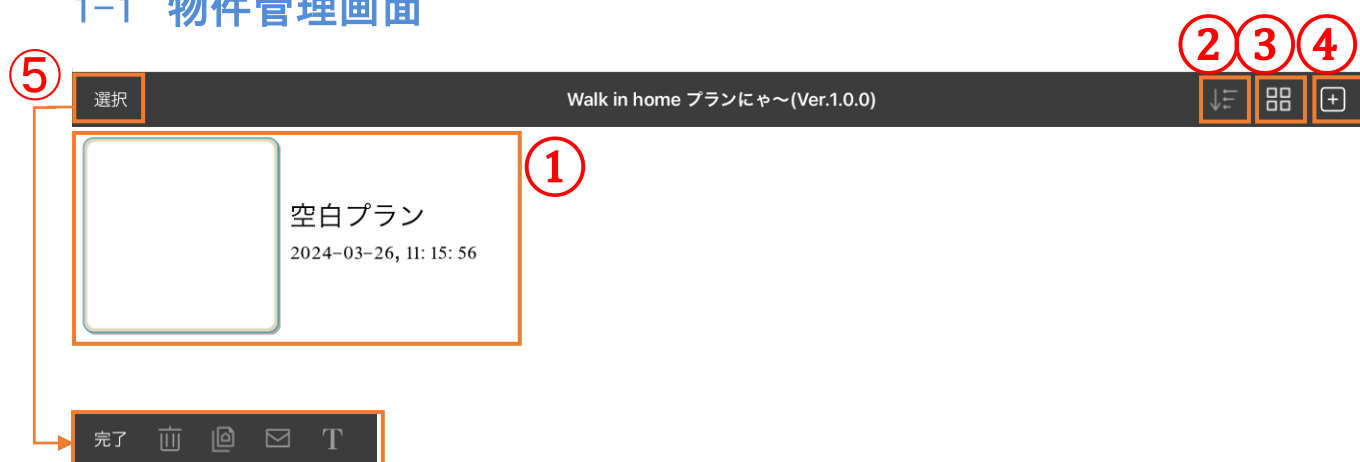
スタートアップガイド

CONTENTS

Chapter 1	画面・メニュー	3
1-1	物件管理画面	3
1-2	共通項目(間取り/パース)	4
1-3	間取り入力画面	5
1-4	3D パース画面	7
Chapter 2	使い方/基本操作	8
2-1	物件の新規作成	8
2-2	間取りの入力	9
2-2-1	部屋要素の入力	9
2-2-2	建具・屋根の自動生成	12
2-3	3D パースの確認	14
2-3-1	3D パースでの操作	14
2-3-2	鳥瞰モード	15
2-3-3	視点登録	16
2-4	画像作成	17
Chapter 3	Walk in home との連携	18
3-1	物件データの送付	18
3-2	物件データのインポート	19
Chapter 4	各機能の詳細	21
4-1	間取り入力画面	21
4-1-1	入力モードについて	21
4-1-2	辞書項目詳細	25
4-1-3	自動生成機能設定について	28
4-1-4	後勝ち先勝ちモードについて	29
4-1-5	見取図機能について	30
4-1-6	スキャン取り込み機能について(LiDAR スキャナ)	33
Chapter 5	よくある質問	41
5-1	動作環境に関する項目	41
5-2	操作全般に関する項目	41
Chapter 6	商標・著作権	42

Chapter 1 画面・メニュー

1-1 物件管理画面



■物件管理画面の主要項目

① 「物件」

間取りなど入力された内容が保存される物件ごとのデータになります。

② 「表示順ソート」

「名前」「日付」で物件の表示順をソートできます。

③ 「一覧切り替え」

物件一覧を縦表示・横表示の切り替えを行います。

④ 「新規作成」

物件の新規作成を行います。新規作成時は「物件の名称」と「階層」の設定が必要になります。

⑤ 「選択」

各物件を選択し、以下のように操作を行います。

「完了」：選択モードを終了します。

「削除」：選択した物件の削除を行います。

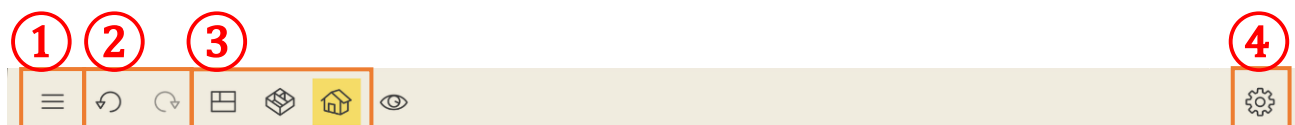
「コピー」：選択した物件のコピーを行います。

「メールで共有」：選択した物件をメールに添付し共有をします。

(『メール』アプリのポップアップを開きます。)

「名称変更」：選択した物件の名称を変更します。

1-2 共通項目（間取り/パース）



■間取り画面・パース画面の共通表示項目

① 「メニュー」

物件を開く：現在の状態で上書き保存するか確認後、物件管理画面に推移します。

上書き保存：現在の入力状態で物件データを上書き保存します。

画像の保存：現在の表示内容を画像ファイルとして保存します。

建物回転：回転角度と基準点を指定して、建物全体を回転させます。

A screenshot of a dialog box titled '物件回転' (Object Rotation). It has a light gray header. Below the header, there is a label '回転角度' (Rotation Angle) followed by a text input field containing the value '90'. Below the input field, there is a line of text: '回転角度を指定後、基準点を指定してください' (After specifying the rotation angle, please specify the reference point). At the bottom of the dialog, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

② 「元に戻す／やり直し」

入力・修正・削除などの状態遷移を元に戻したり取り消しを行います。

③ 「モード切り替え」

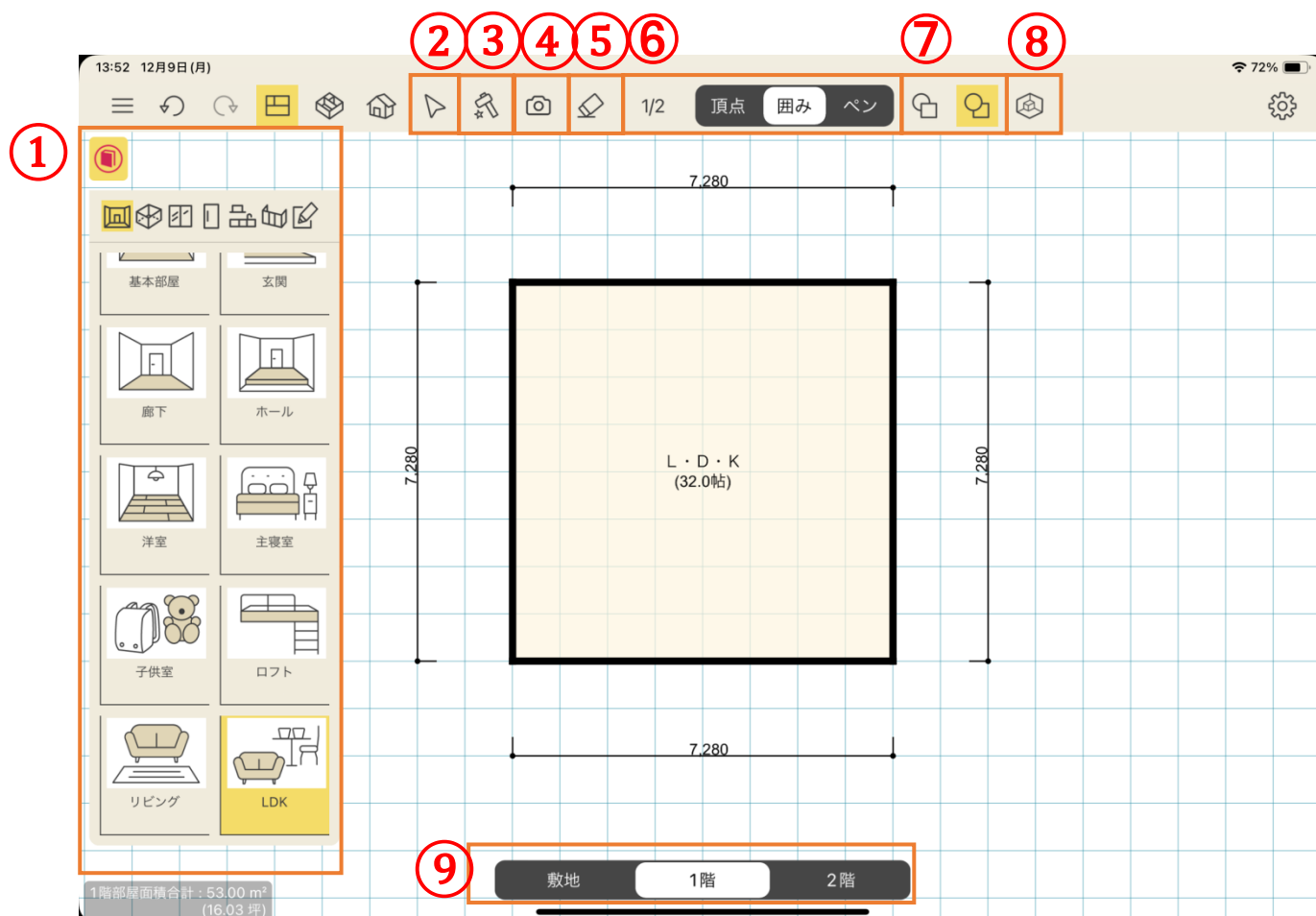
「間取り入力」「鳥瞰パース表示」「3D パース表示」とそれぞれモードへ切り替えます。

各モードを切り替えの際は再描画を行います。

④ 「設定」

物件の階層設定、モジュールの設定、面積表示単位の設定を行なえます。

1-3 間取り入力画面



■間取り入力画面の主要項目

① 「基本辞書」

辞書アイコンをタップすることで、入力要素を選択出来ます。

また入力されている部屋要素はドラッグ&ドロップで変更がおこなえます。

(要素一覧など詳細は「Chapter4 の 4-2-2 辞書項目詳細」をご参照ください)

② 「選択」

入力モードを解除します。要素入力後、「選択」をタップします。

③ 「自動入力」

建具、屋根の要素を現在の間取りに合わせ自動入力を行います。

④ 「見取図」

見取図の取り込み、表示設定が出来ます。

⑤ 「消しゴム」

ペン入力範囲にある入力要素を削除します。

また「建具」「設備」要素に関しては、消しゴムでの削除対象外の要素になりますので、該当要素に関しては、入力要素を選択して削除をお願いいたします。

⑥ 「入力モード切り替え」

間取りの入力モードを切り替えます。

「1/2」アイコン: グリット入力のサイズを設定します。初期値は 1/2 グリットになります。

入力モードスイッチ: 入力モードを切り替えます。

「頂点入力」「囲み入力」「ペン入力」がございます。

(詳細は「Chapter4 の 4-2-1 入力モードについて」をご参照ください)

⑦ 「後勝ち/先勝ち」

入力モード(勝ち負けアイコン)で後勝ち／先勝ち方式の入力が選択します。

⑧ 「スキャン取り込み」

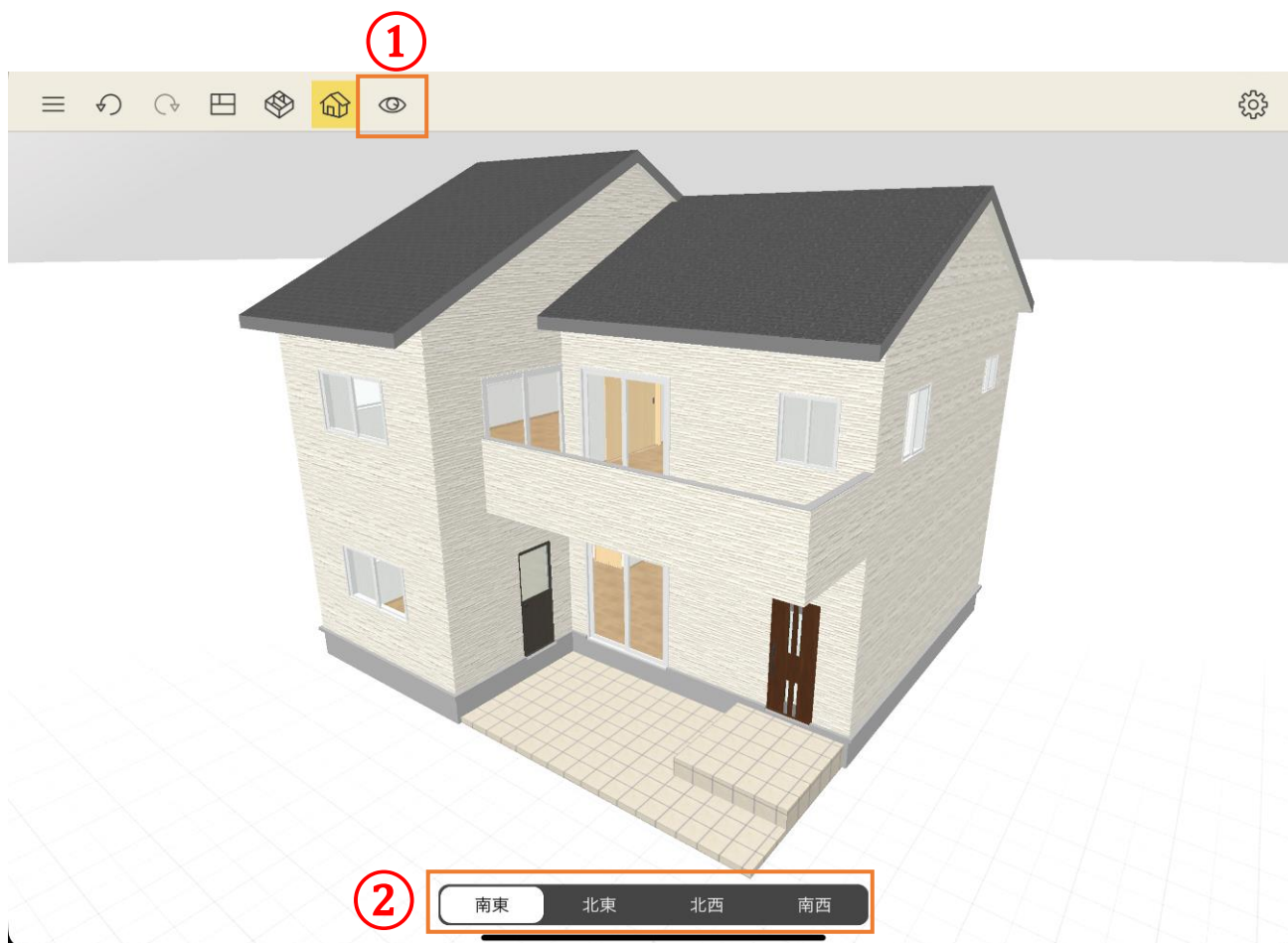
iOS／iPadOS の LiDAR 機能を用いてスキャン取り込みを行います。

⑨ 「階層」

間取りを入力する階層を。切り替えます。

物件作成時に設定したまでの階層の他、「敷地」階層があります。

1-4 3D パース画面



① 「カメラ一覧」

登録されたカメラの一覧を表示します。

② 「視点」

登録されたカメラへ視点の切り替えを行います。

Chapter 2 使い方/基本操作

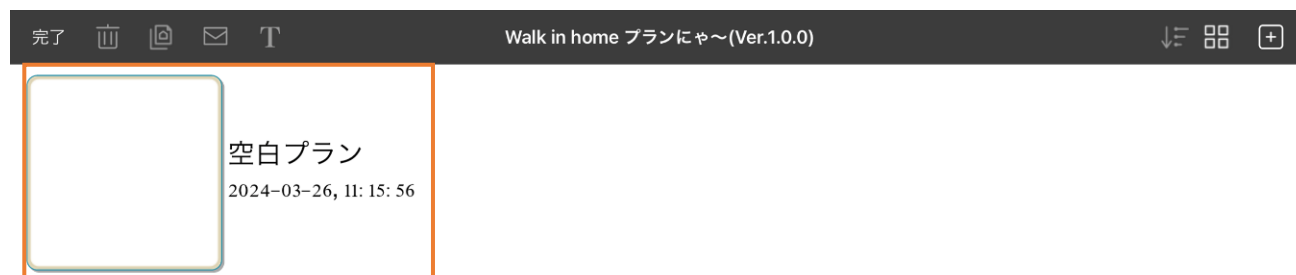
2-1 物件の新規作成

物件管理画面から、新規で物件データを作成します。

 ボタンから「プラン新規作成」の画面を表示し、「物件名称」と「物件階層」を入力し、「作成」を押します。



追加された物件の項目を開くと、間取り入力画面へ遷移します。

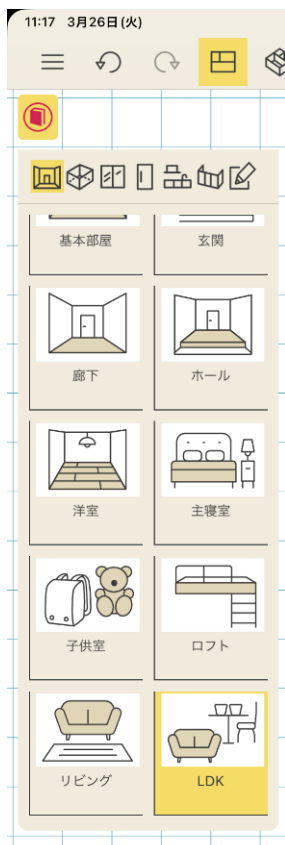


2-2 間取りの入力

新規された物件に間取りを入力していきます。

2-2-1 部屋要素の入力

 アイコンを押し、辞書を開きます。



間取り種別の一覧が表示されます。

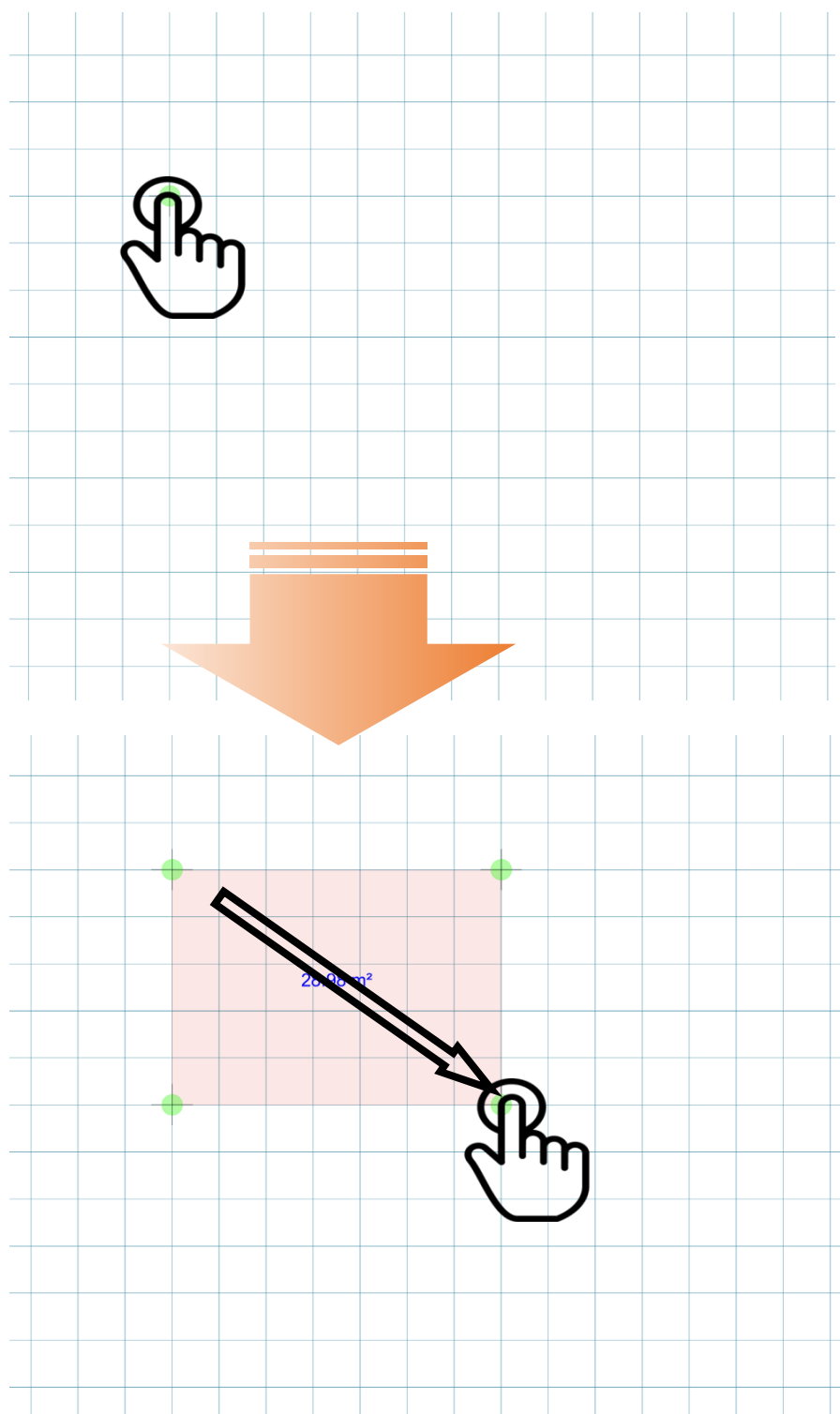
入力したい間取りの項目を選択してください。

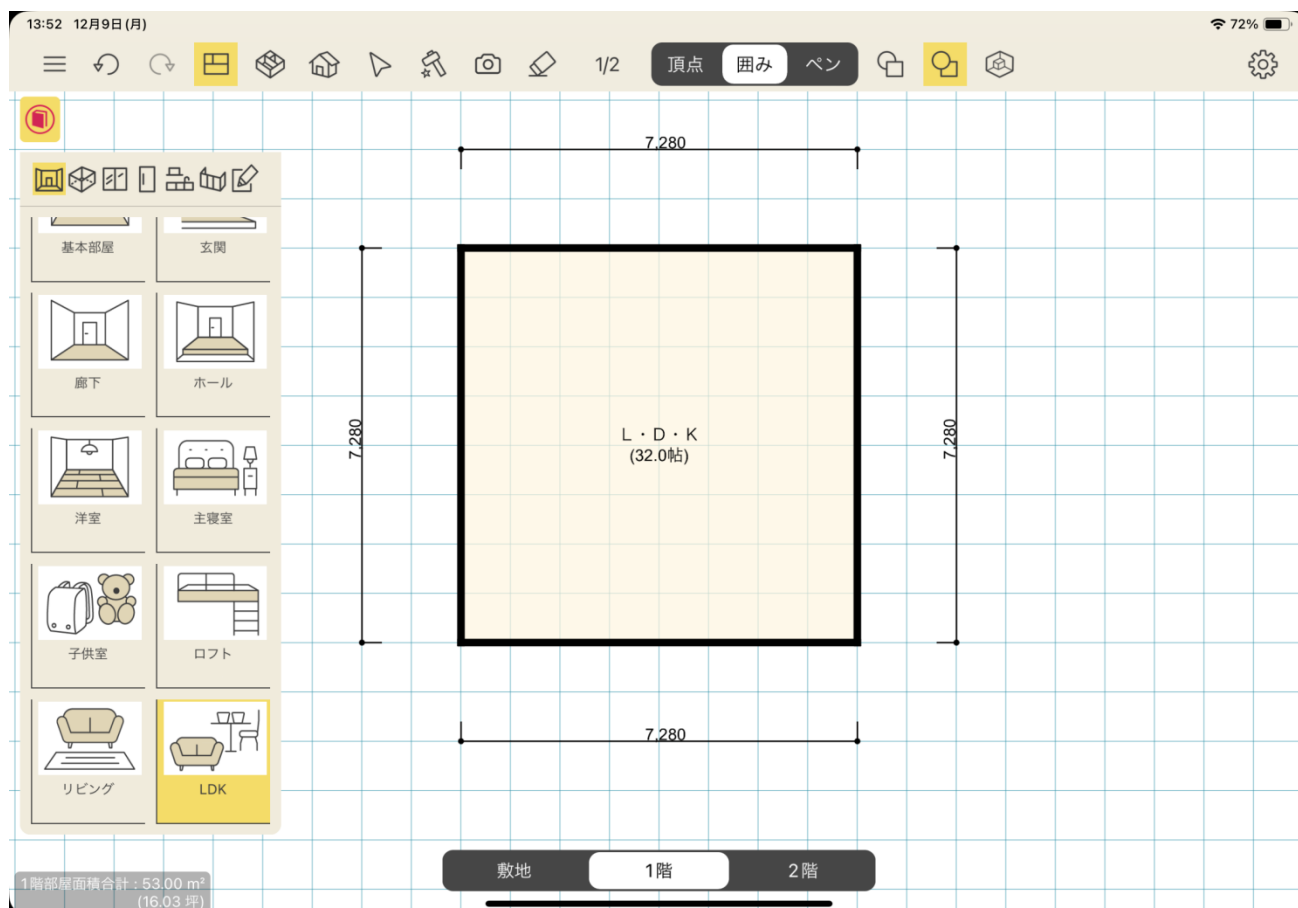
今回は「囲み」モードによる間取り入力を行います。

「頂点」「ペン」に切り替えることで入力モードを変更できます。



「囲み」モードの場合、座標点を対角線上になるように入力することで範囲を確定します。
任意の箇所に指を置き、斜め方向にスワイプさせながら間取り領域を定め、指を離すと入力されます。





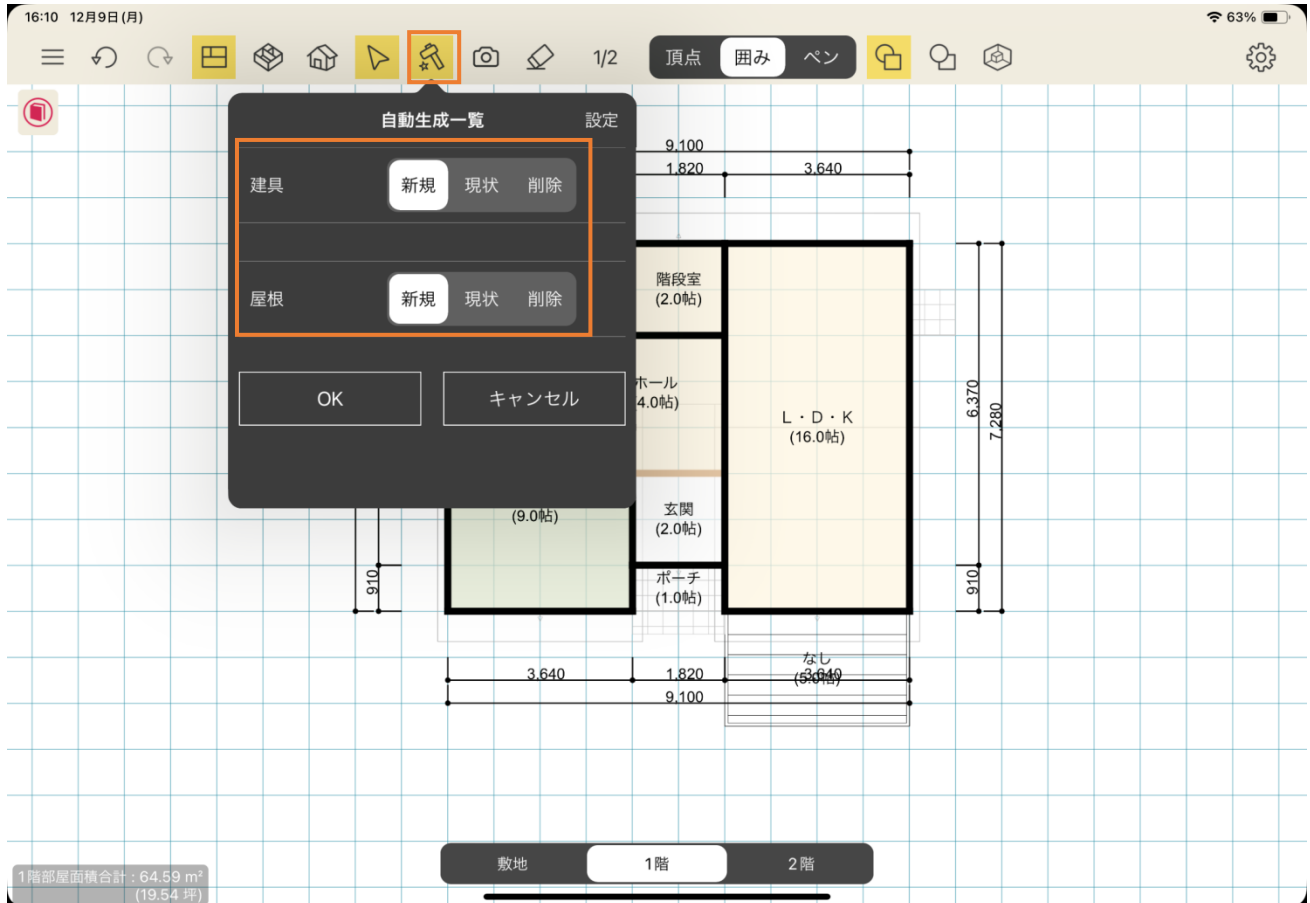
選択した間取りが入力されます。
(この時点で 3D パースの確認も行えます。)

※その他の要素の詳細は「4-1-2 辞書項目詳細」をご参照ください。

2-2-2 建具・屋根の自動生成

間取りを入力したら、その他の要素を入力していきます。

辞書からの手動入力も行えますが、自動生成機能による要素追加で手早く入力が行なえます。



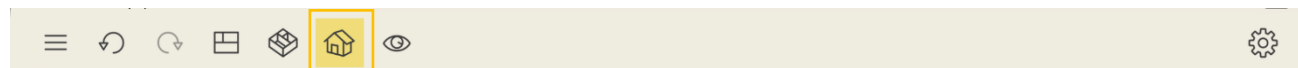
★ アイコンを押し、ポップアップから自動生成する要素を設定します。

ここでは「建具」「屋根」共に「新規」に設定して、OK を押します。

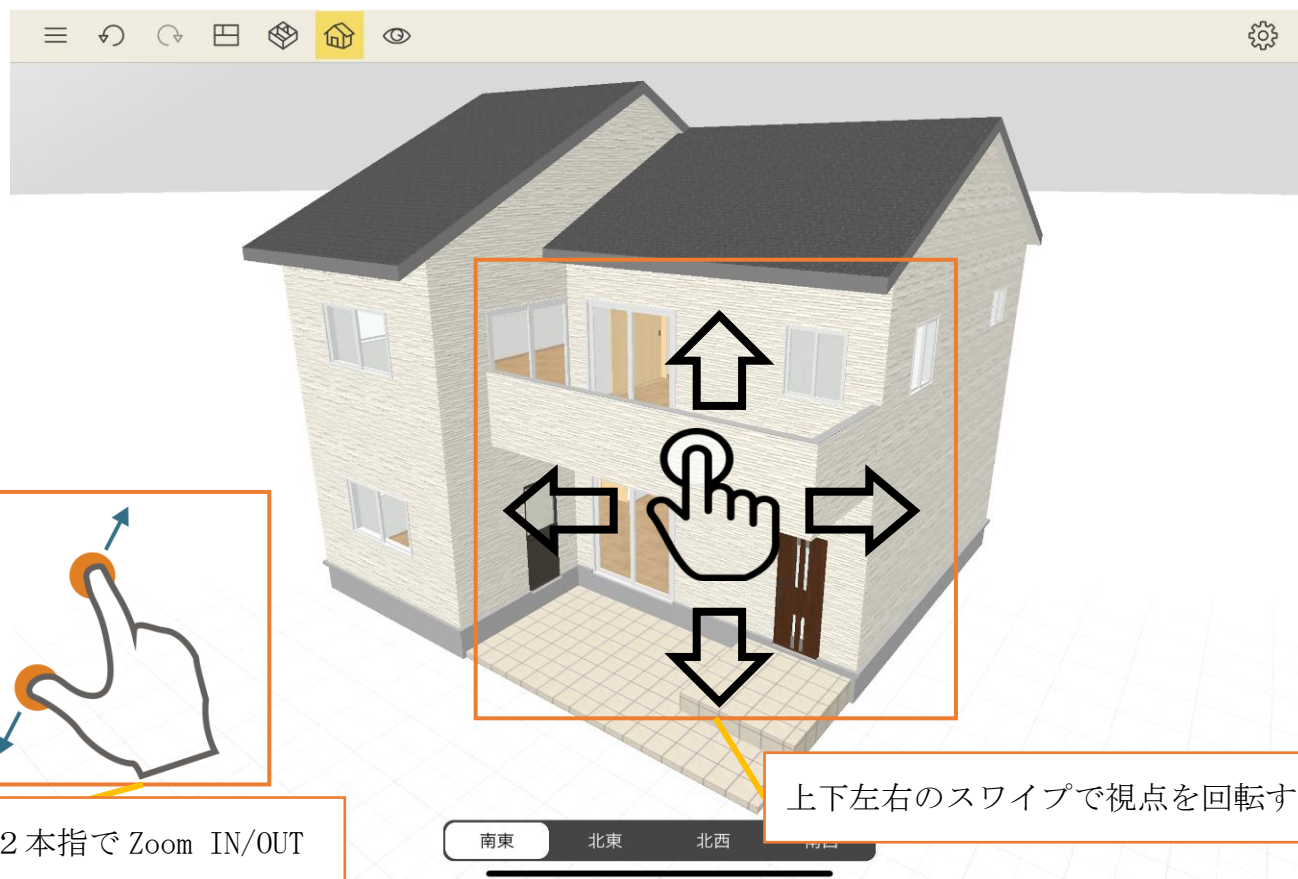
2-3 3D パースの確認

2-3-1 3D パースでの操作

間取りを入力したら 3D パースの確認が可能になります。



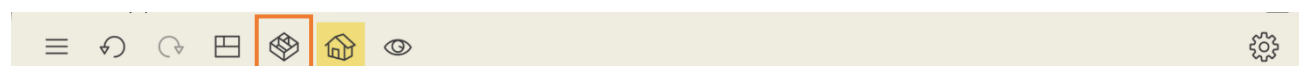
 アイコンから 3D パース画面に切り替えます。



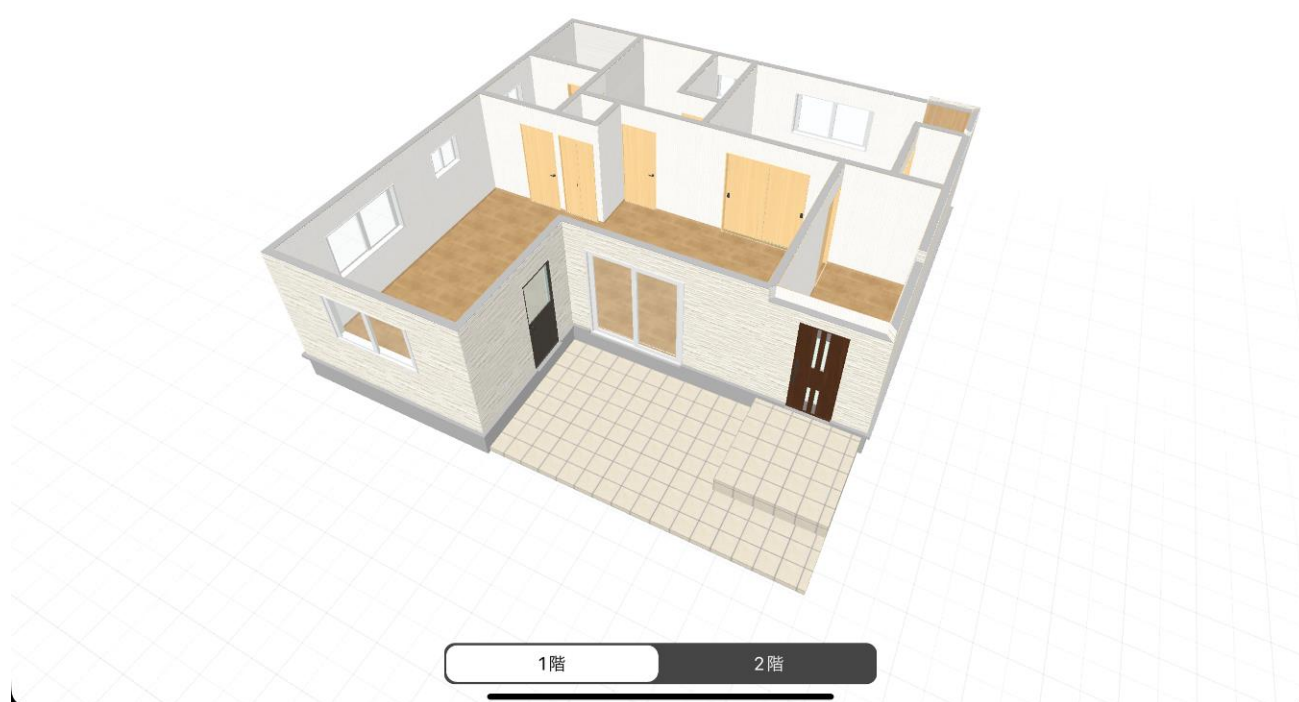
また「南東」「北東」「北西」「南西」といったの視点タブから、
それぞれの方角から見た視点への切り替えも可能になります。

2-3-2 鳥瞰モード

3D パースの視点の他、鳥瞰モードに対応しております。



 アイコンを押すと鳥瞰モードへ表示が切り替わります。



カメラの操作方法は 3D パースモードと同様になります。

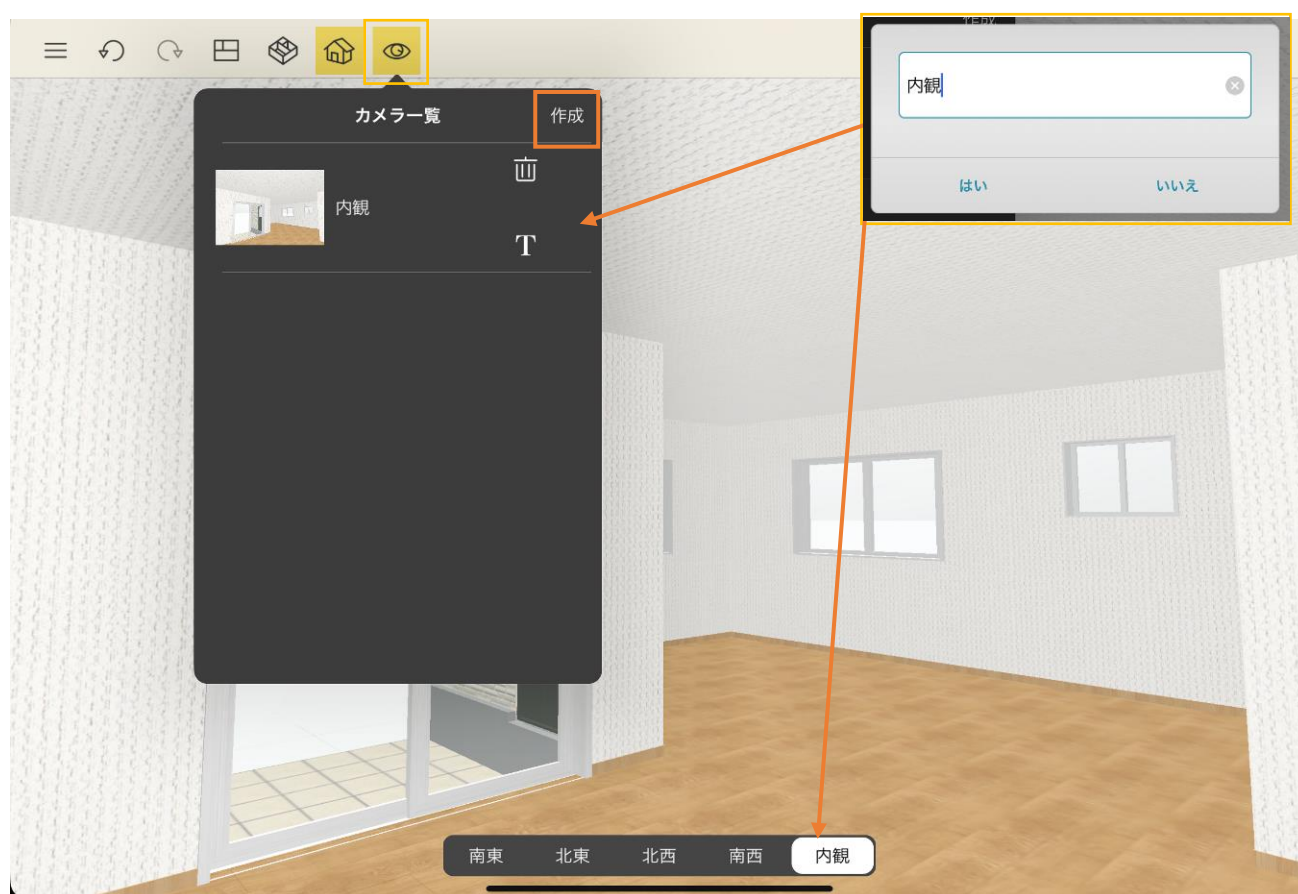
2-3-3 視点登録

視点情報は外観四方向の視点のみ、デフォルトで登録されております
内観など気に入った視点がある場合は、視点登録から視点を登録すると、
カメラの操作がよりスムーズになります。

登録したい視点にスワイプ操作などで合わせた後、

 アイコンを押し、表示された「カメラ一覧」ポップアップ上の「作成」を押します。

視点名の入力が求められるので、任意の名称を入力して「はい」を押すと、
カメラ一覧と視点タブに視点が登録されます。

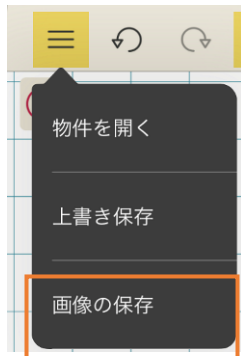


2-4 画像作成

現在の表示している内容で画像を作成します。

この際、ツールバーなどの UI の部分に関しては反映されません。

 アイコンを押し、「画像の保存」を押してください



画像内容の確認が表示されますので、「はい」を押すとお手持ちの写真アプリに保存されます。



Chapter3 に進む場合、「上書き保存」で物件データの保存、
及び「物件を開く」で物件管理画面に表示を切り替えておきましょう。

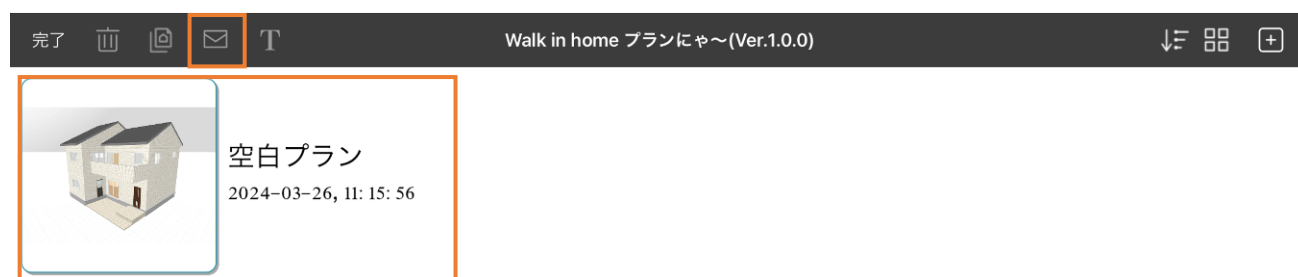
Chapter 3 Walk in home との連携

3-1 物件データの送付

本アプリケーションで制作した物件データは Walk in home 上でデータのインポートが可能になります。
物件データは端末のメール機能を通じて送付可能になります。

物件管理画面から「選択」アイコンを押し、送付したい物件を選択します。

物件を選択してから  アイコンを押すと、メールアプリが自動的に立ち上がり、
物件データを json 形式のファイルとして、送付が可能になります。



3-2 物件データのインポート

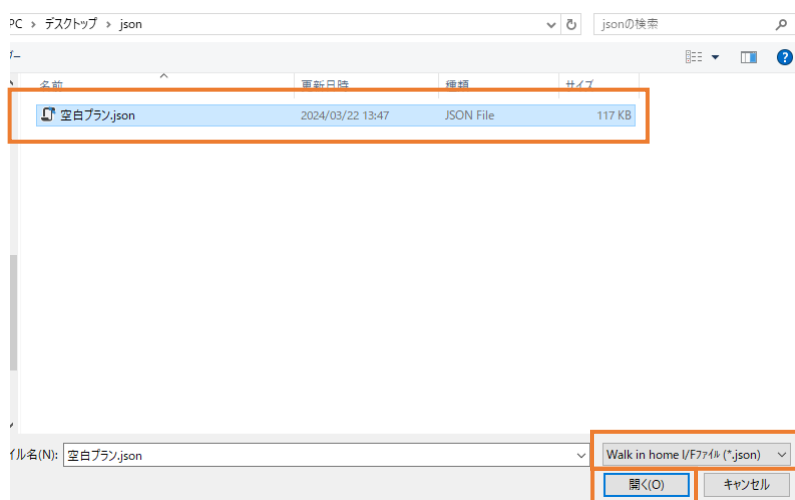
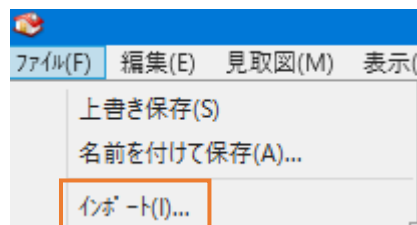
送付された物件データを Walk in home 上へインポートを行います。

※ 本機能は Walk in home 2023 rel1.20 のバージョンが必要になります。

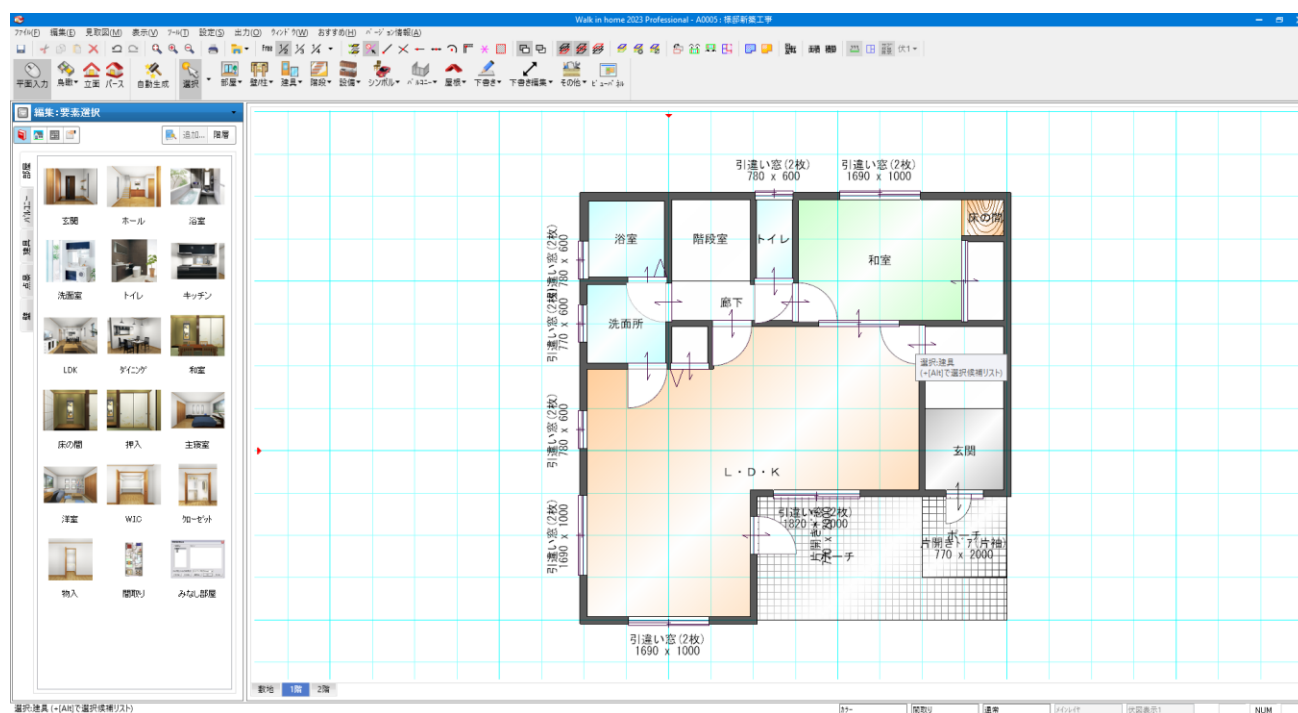
Walk in home を起動し、新規で物件を作成します。



CAD 画面が開いたら、「ファイル」→「インポート」の順番に押し、送付した json ファイルを選択して開きます。



物件データをインポートし、入力した内容が反映されます。



※:設備要素は連携対象外になります。

Chapter 4 各機能の詳細

4-1 間取り入力画面

4-1-1 入力モードについて

間取り入力画面における、各入力モードについて解説します。

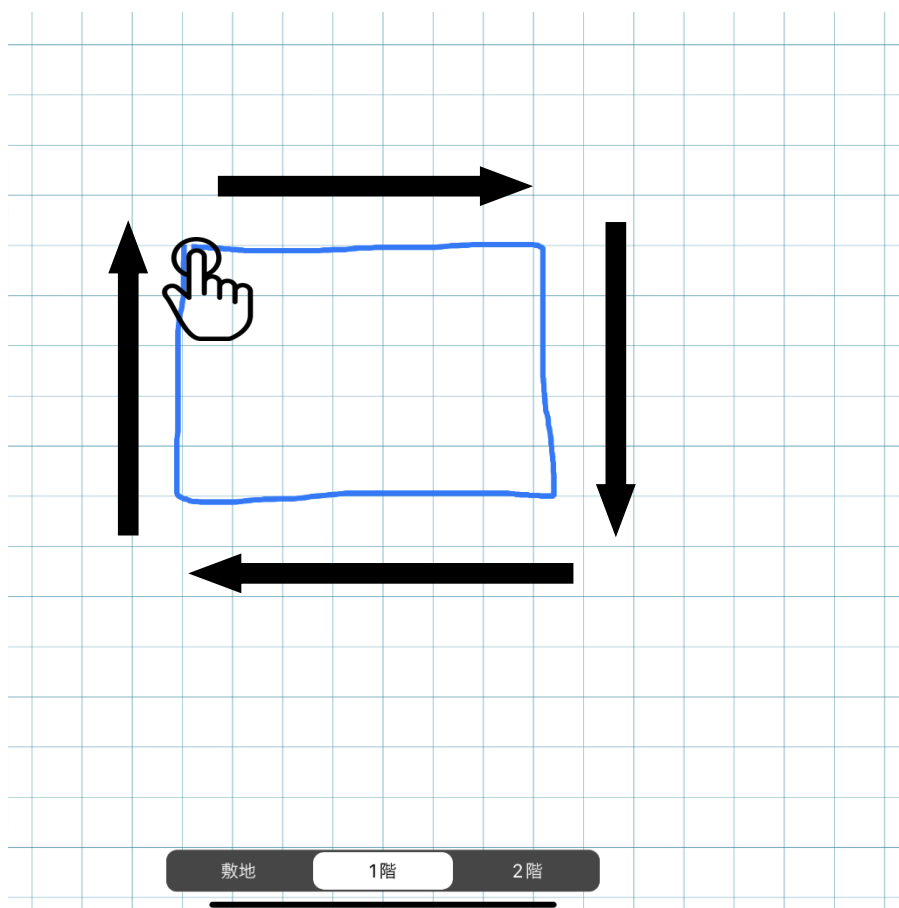
要素によっては入力モードが固定されている場合もありますのでご注意ください。

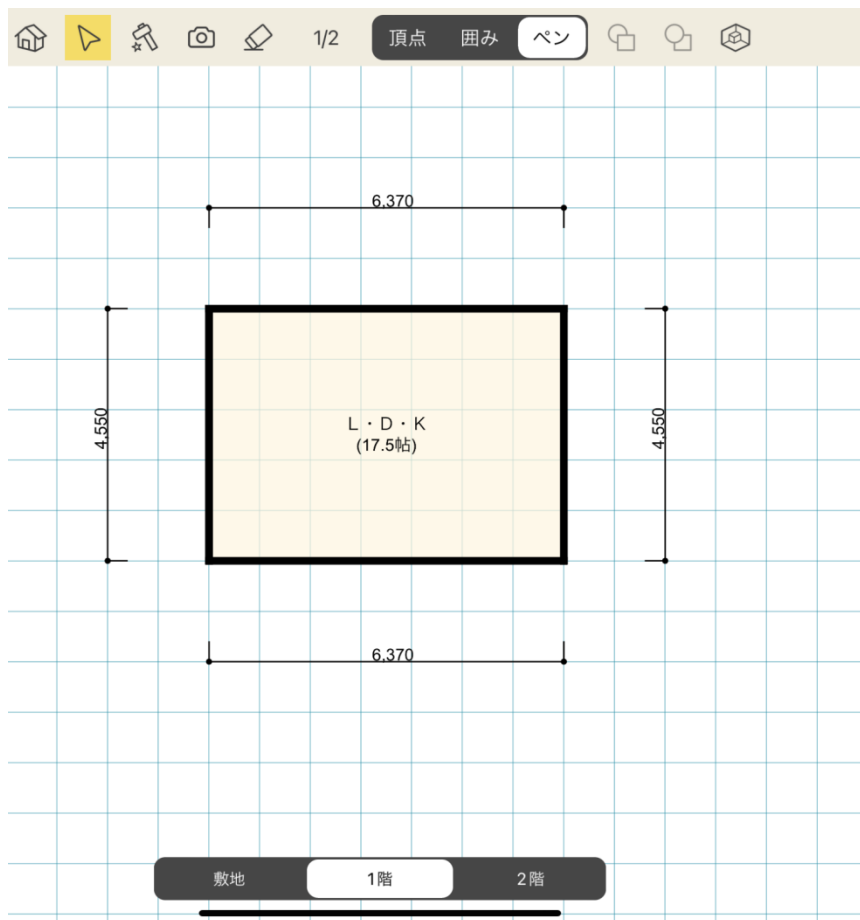
① 囲み

入力点と範囲を、それぞれ座標点が対角線上になるように入力することで範囲を確定します。
任意の箇所に指を置き、斜め方向にスワイプさせながら間取り領域を定め、
指を離すと入力されます。

② ペン

入力範囲を、線を引くように入力する方法になります。



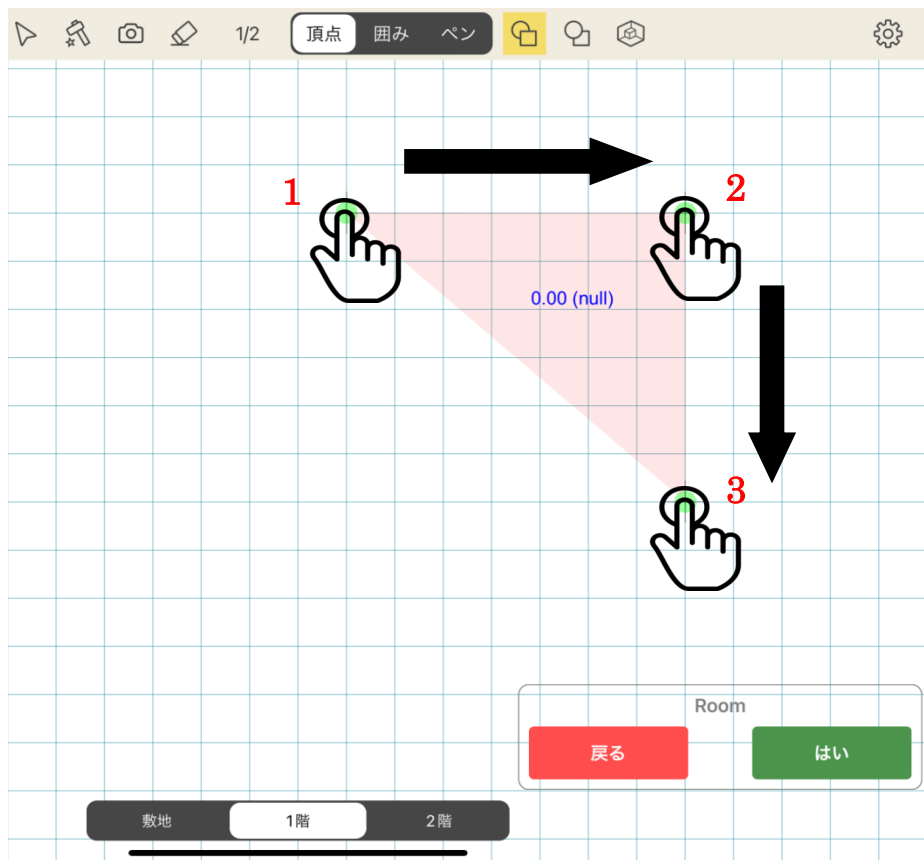


入力範囲を一筆書きで指定した後、入力した線からグリットに合わさるように、自動的に補正を行い入力を行います。

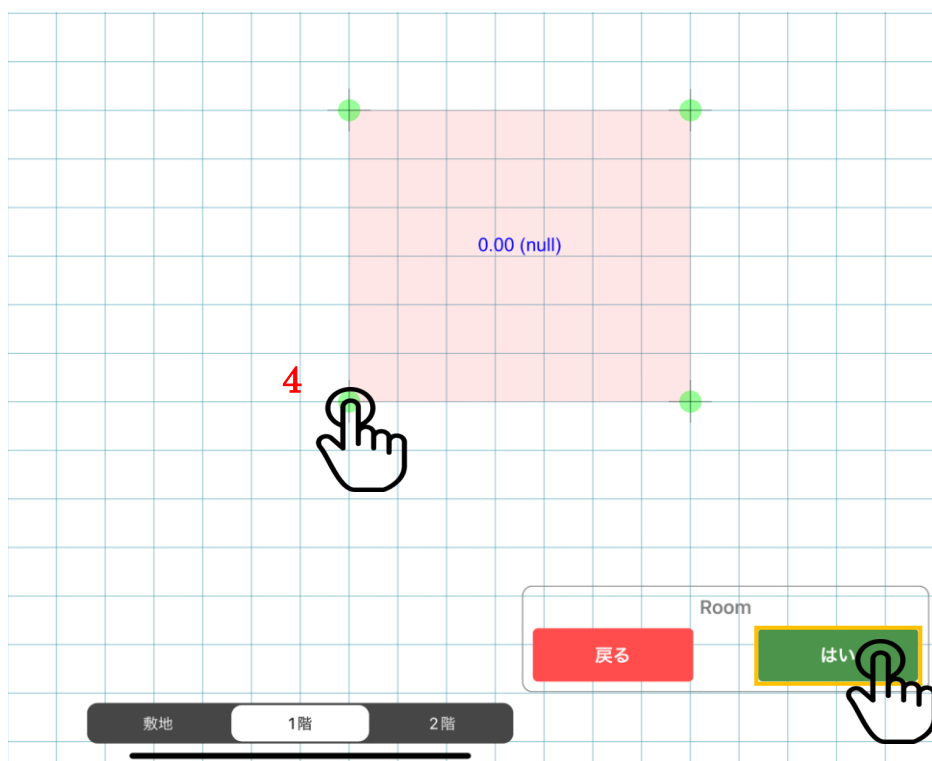
手による入力も行えますが、端末対応のタッチペンでも操作が可能です。

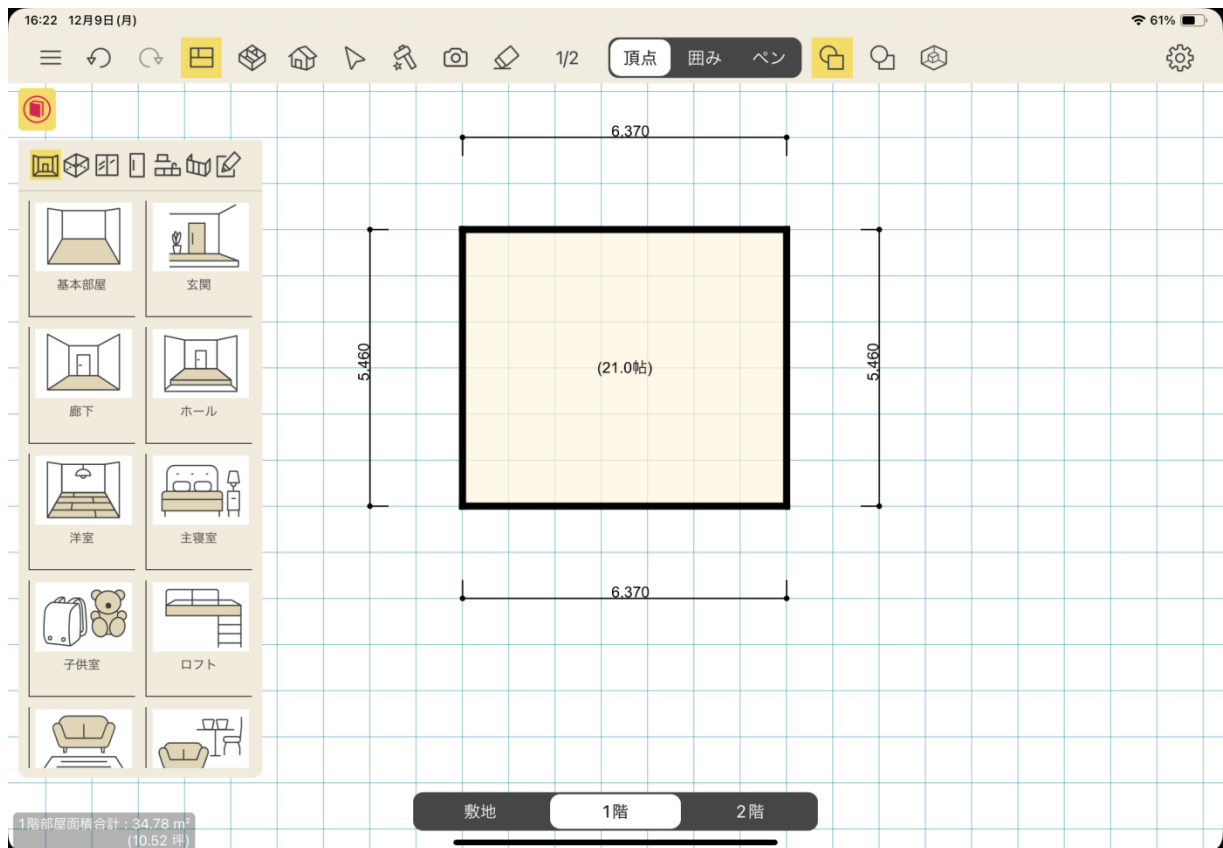
③ 頂点

入力範囲の頂点を1つずつ入力していく入力方法になります。

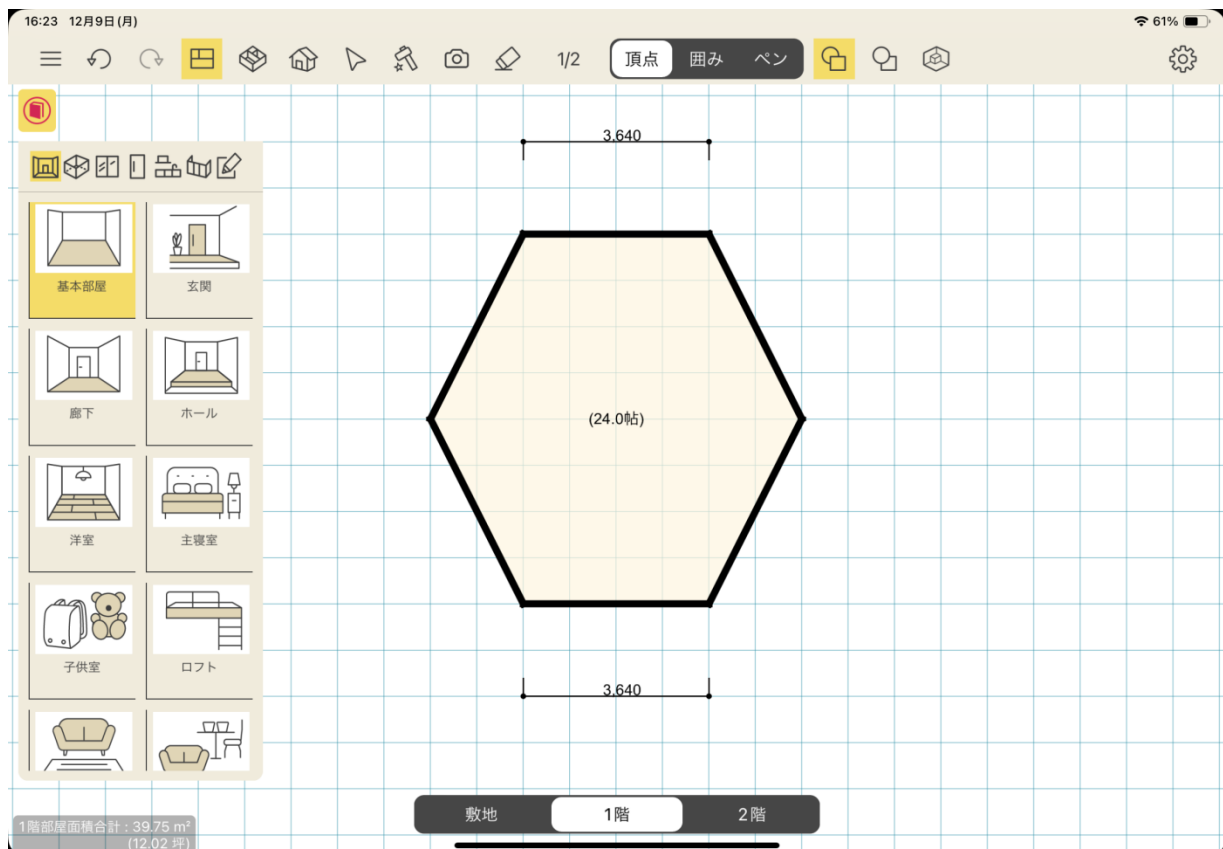


全ての頂点を入力し終わったら、「はい」ボタンを押すと入力を確定します。



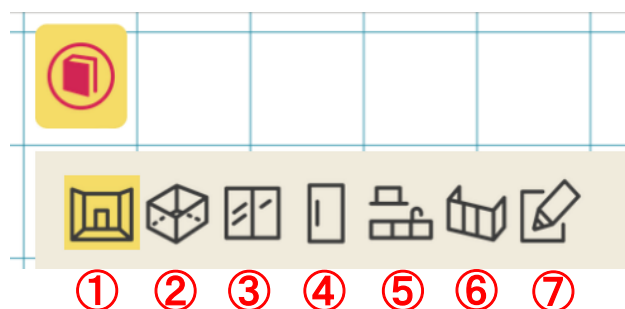


頂点入力は台形や多角形などの複雑な形の間取りなどの入力に有用になります。



4-1-2 辞書項目詳細

各項目に関して記載致します。

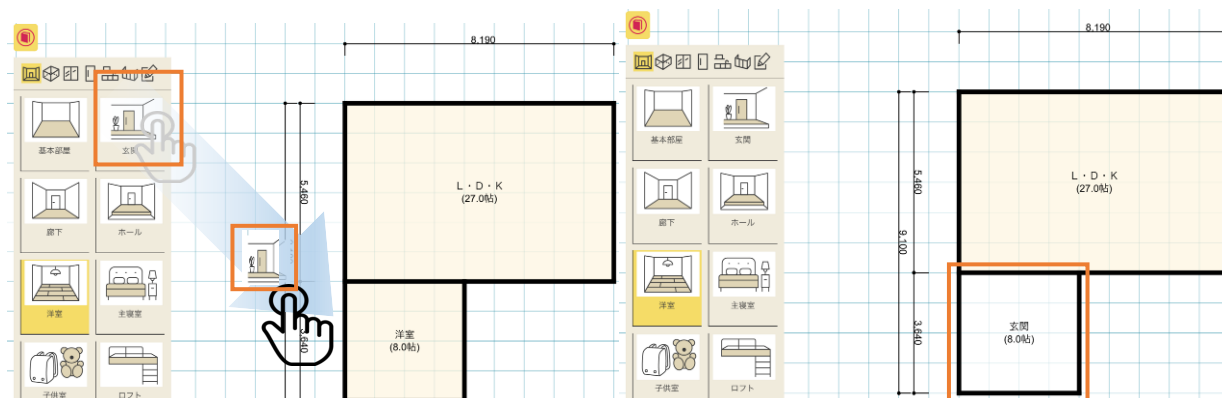


① 部屋

入力する部屋種別の一覧になります。共通して、「ペン」「囲み」「頂点」の入力が行えます。

入力する際、領域の外周に壁要素が自動的に生成されます。

また入力済みの部屋種別を変更する場合、ドラッグ&ドロップ操作で変更が可能です。



② 壁類

「上がり框」「下がり壁」「上がり壁」「全開口」要素の選択が行えます。

壁類種別要素は共通して、「ペン」モードでの入力になります。

③ 窓

窓要素の一覧になります。入力済みの壁要素に重なるように入力を行います。

窓要素は共通して、「ペン」モードでの入力になります。

(「AI 建具」要素は入力された部屋状況から、自動で種別を選択し入力する要素です)

④ ドア

ドア要素の一覧になります。入力済みの壁要素に重なるように入力を行います。

ドア要素は共通して、「ペン」モードでの入力になります。

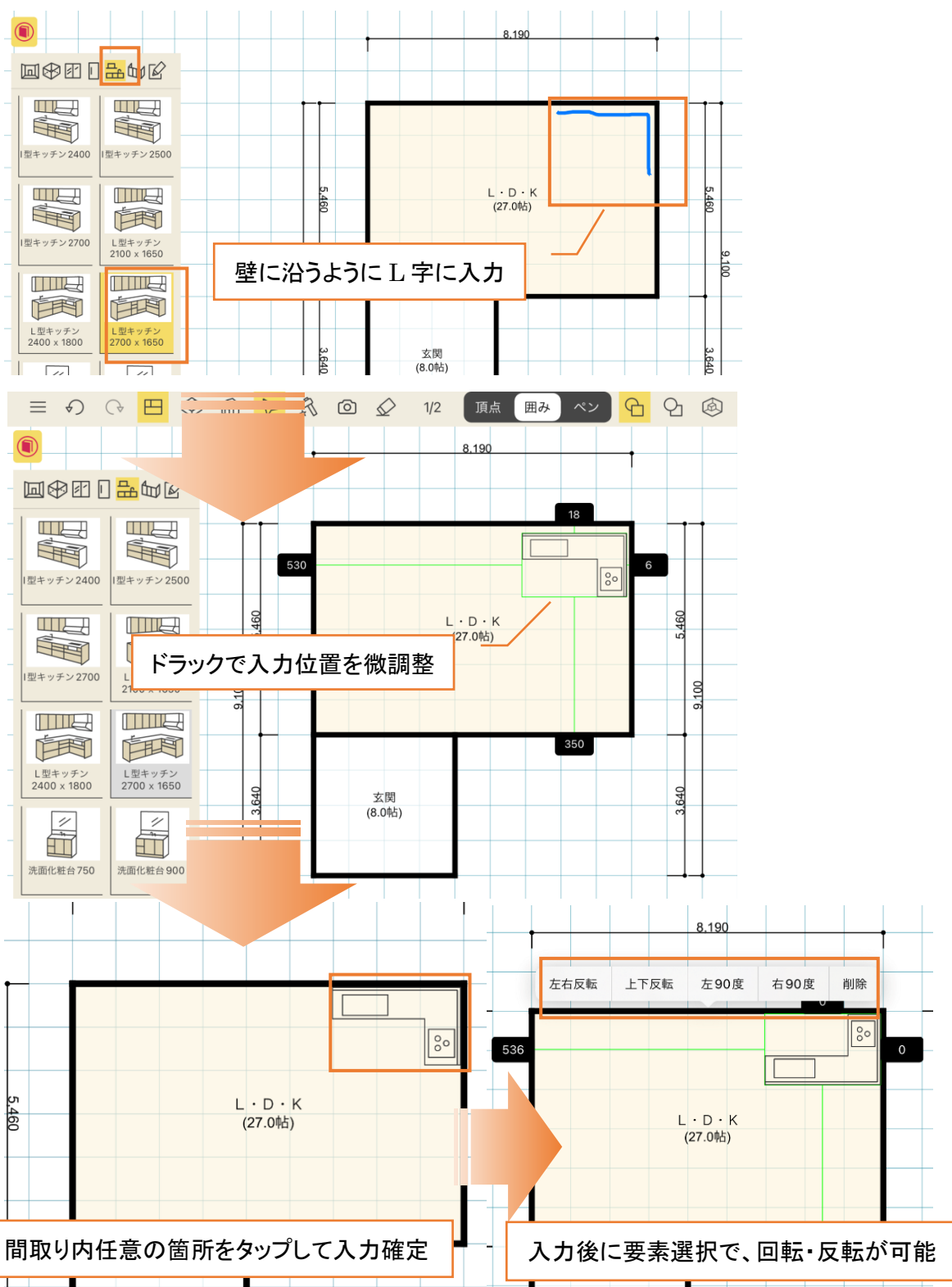
(「AI 建具」要素は入力された部屋状況から、自動で種別を選択し入力する要素です)

⑤ 設備

設備要素の一覧になります。

設備要素は「ペン」モードとドラッグ操作によって入力をしていきます。

入力例：



⑥ バルコニー・ウッドデッキ・ポーチ

バルコニー・ウッドデッキ・ポーチ要素の一覧になります。

共通して、「ペン」「囲み」「頂点」の入力が行えます。

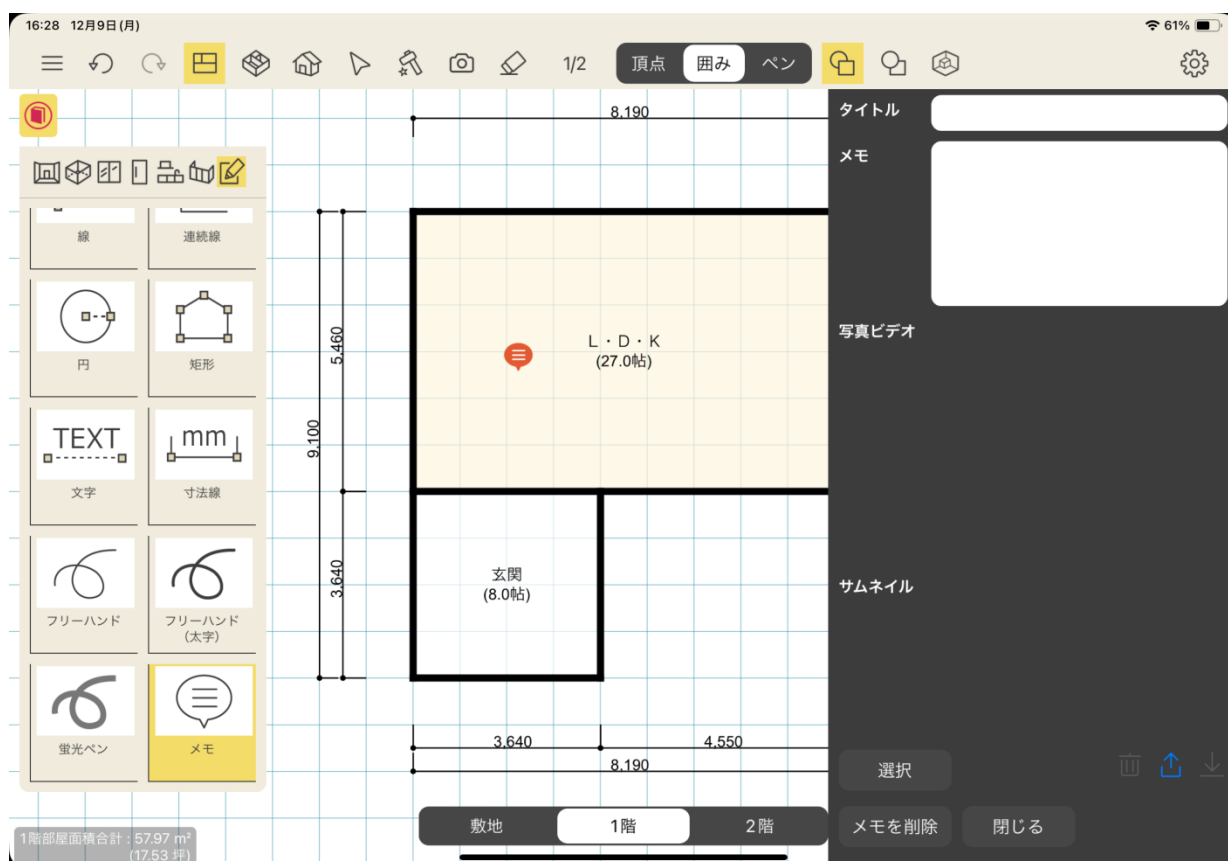
⑦ 下書き類

間取り入力画面のみに反映される要素一覧になります。図面に書き込む下書きとして使用します。

以下、要素毎に入力形態が異なります。

- ・線、円、文字、寸法線：2点での入力です。1点目で始点、2点目で範囲を入力します。
- ・連続線、矩形：ペン入力を入力します。入力を離れた際に形状補完され確定する内容となります。
- ・フリーハンド、蛍光ペン：ペン入力になります。形状補完されず入力したままになります。
- ・メモ：1点入力とプロパティ内に情報を設定することで入力します。

入力したメモ要素一つずつ独自のプロパティを持ちます。



タイトル/メモ：テキストを入力出来ます。

写真ビデオ：メモ要素内で選択された画像・動画を表示します。

サムネイル：メモ要素に添付されている画像・動画の一覧を表示・選択します。

動画ファイルは  アイコンをタップすることで、端末に保存されている画像・動画、

またはカメラを使用して撮影を行い、メモ要素に添付を行います。

またメモ要素は「元に戻す／やり直し」の機能には対応しておりません。

4-1-3 自動生成機能設定について

自動生成の対象要素のうち、屋根要素は生成する形状と勾配の設定が可能になります。



屋根形状:

生成する屋根の形状を設定できます。対応している形状は以下の通りになります。

「寄棟」、「切妻(水平)」、「切妻(垂直)」、「異勾配(水平)」、「異勾配(垂直)」

屋根勾配:

屋根の勾配角度を設定できます。

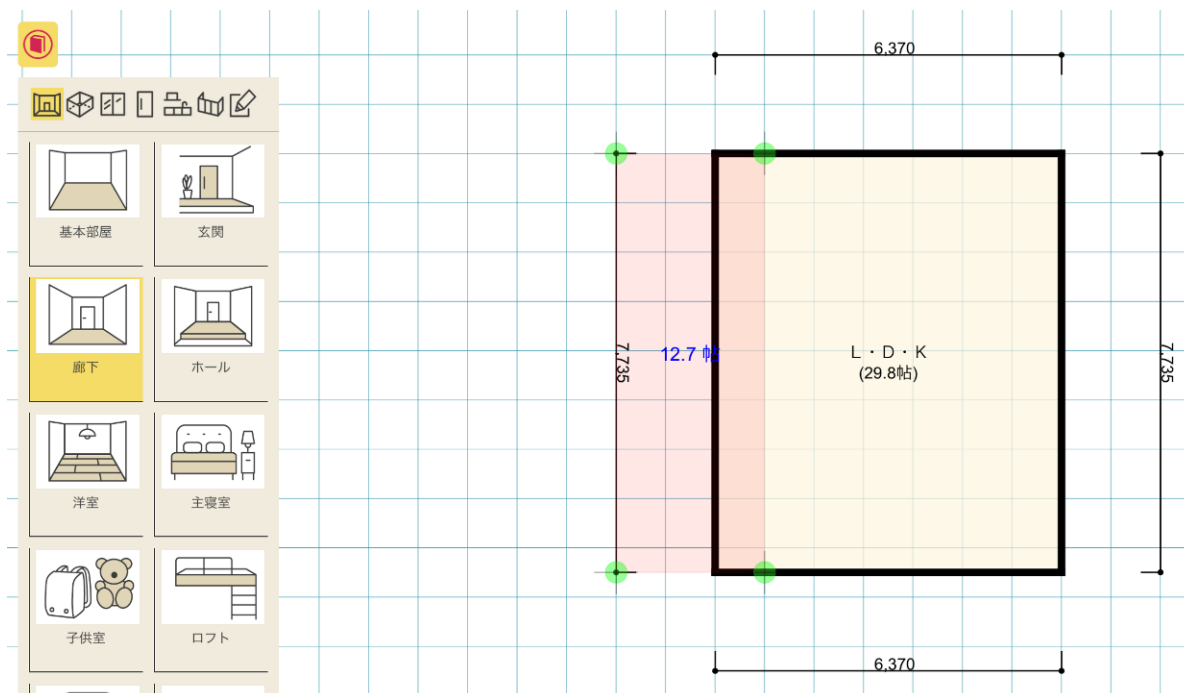
4-1-4 後勝ち先勝ちモードについて

 アイコンで要素入力時の後勝ち／先勝ち方式を選択します。

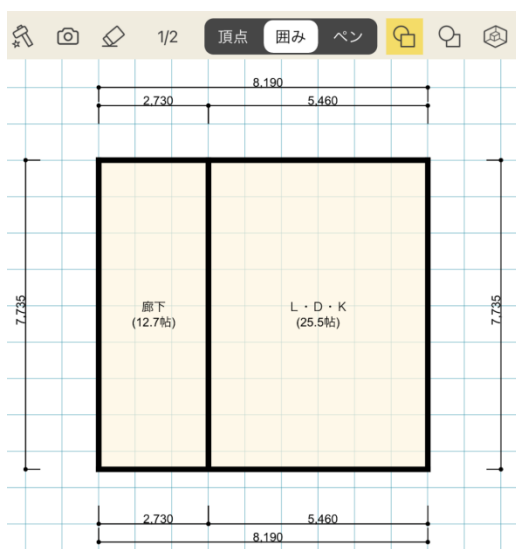
後勝ち先勝ちモードはペン入力には対応しておりません。

入力例：

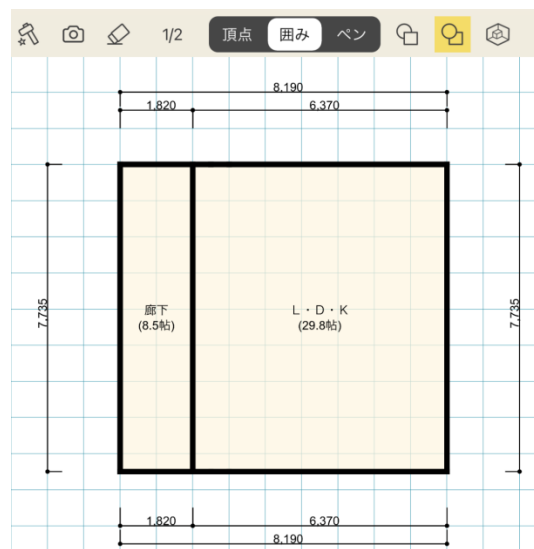
入力されている部屋要素に範囲が重なるように、別の部屋要素を入力します。



後勝ちの場合：



先勝ちの場合



後勝ち/先勝ちによって、入力確定後に反映される結果が異なります。

4-1-5 見取図機能について



アイコンより、見取図機能を使用できます。



- ① カメラ撮影をします。
- ② 画像を選択します。



- ③ 取込んだ見取図の表示設定をします。

見取りの表示設定は、 アイコンをタップすることで切り替えることができます。



: 背面表示



: 前面表示



: 非表示

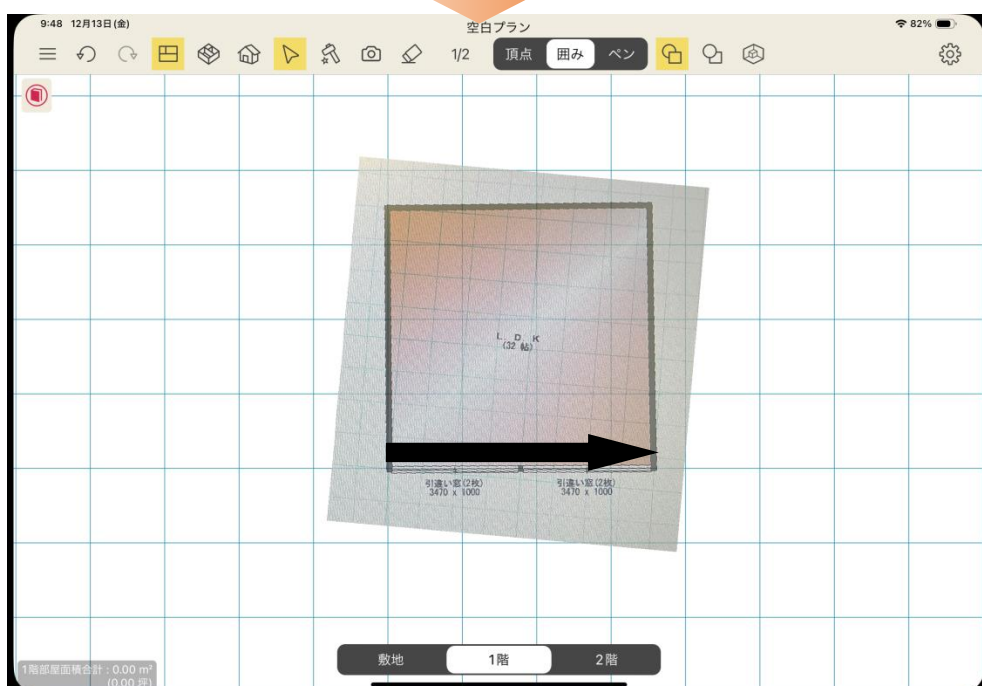
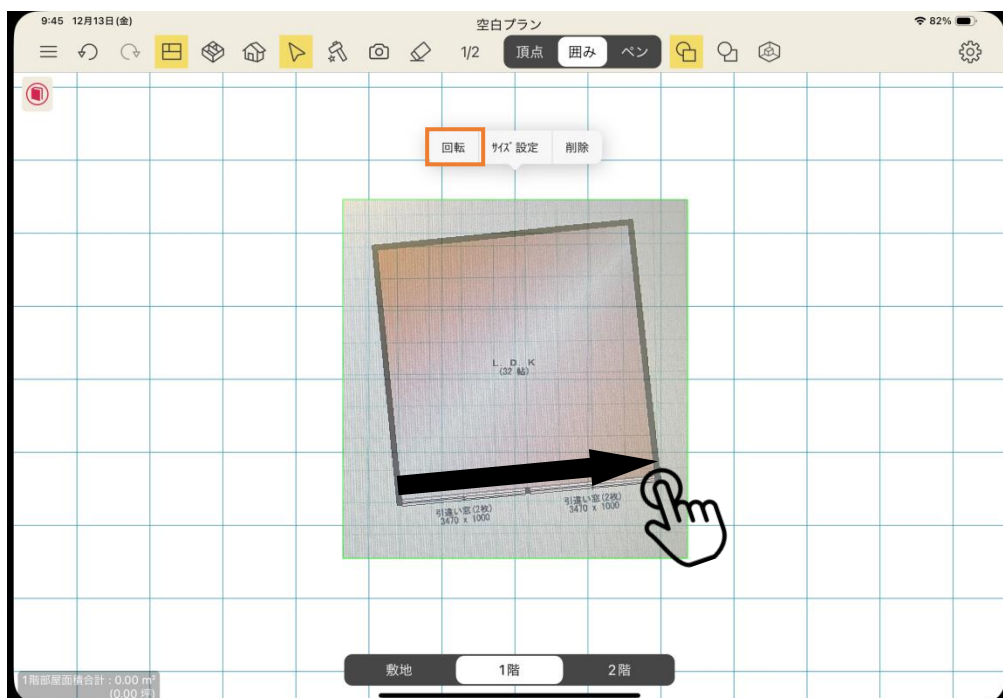
■取り込み後の見取図編集

取り込んだ画像をタップすると、回転／サイズ設定／削除ができます。



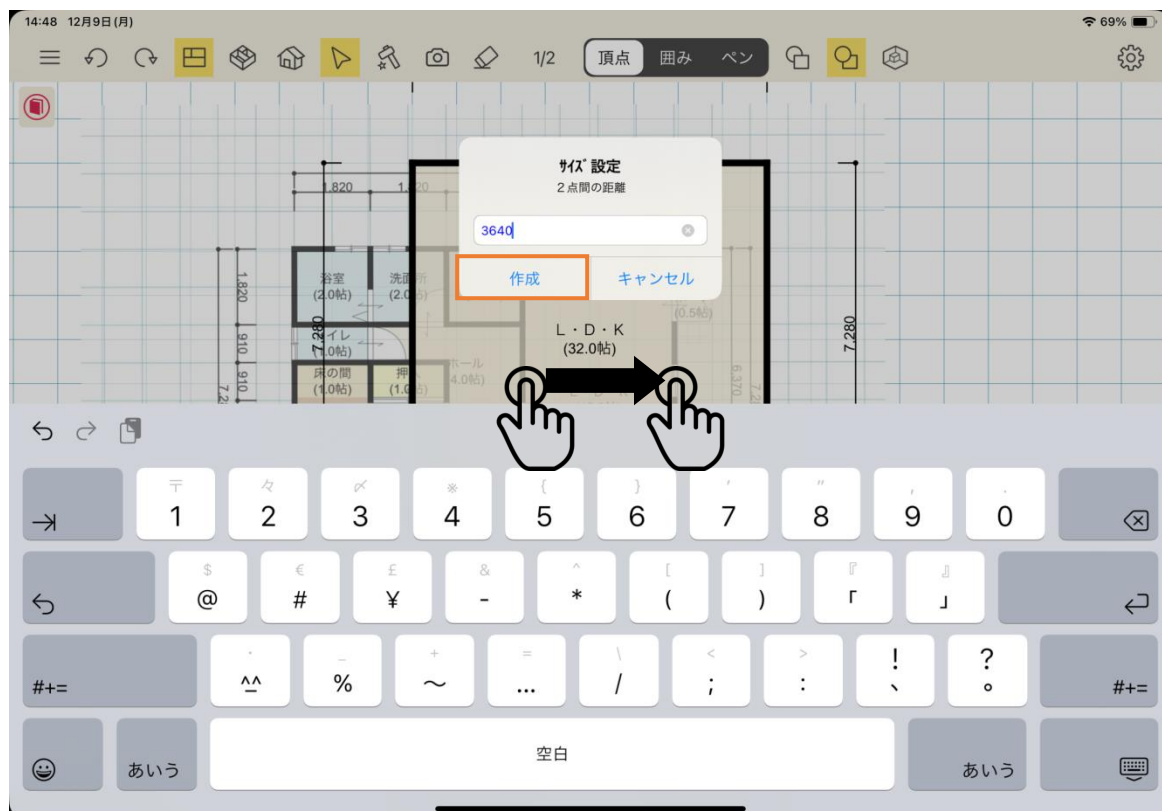
① 「回転」

水平にしたい一辺をスワイプし、指を離すと回転します。



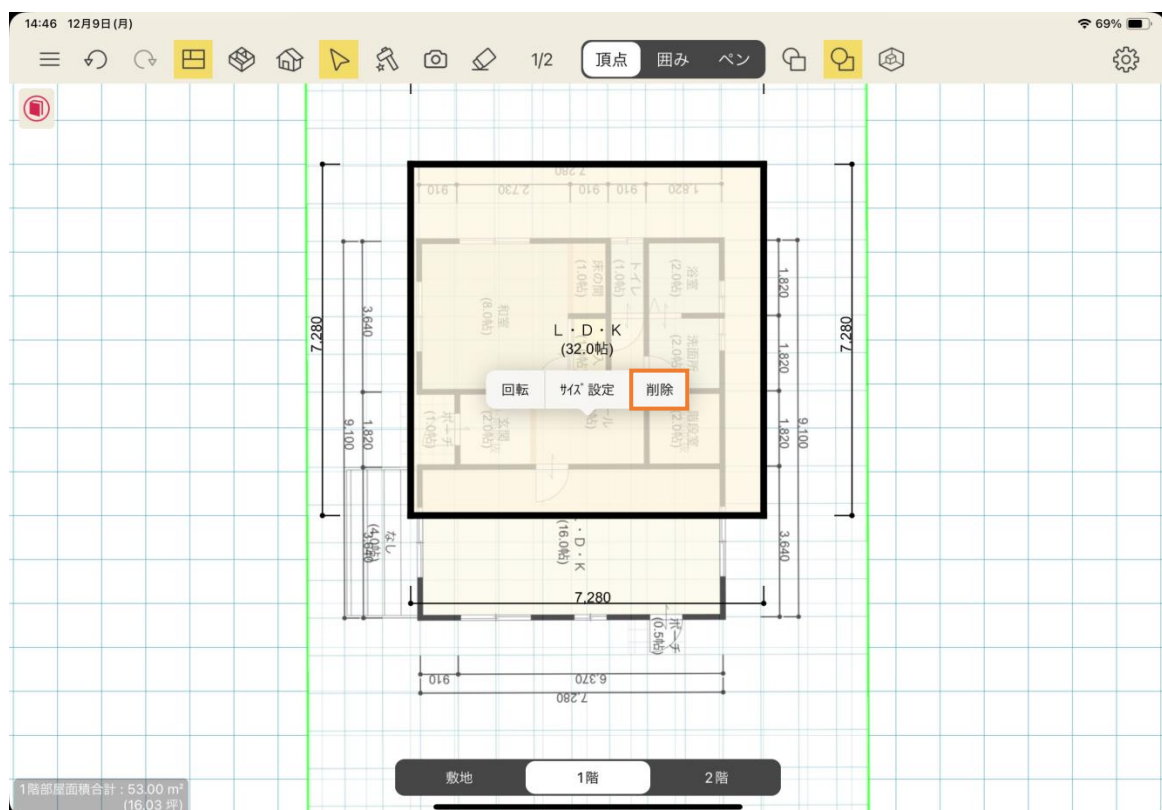
② 「サイズ設定」

サイズ変更したい2点間の距離をタップし、任意の数値を入力後、「作成」をタップします。



③ 「削除」

取り込んだ見取図を削除します。



4-1-6 スキャン取り込み機能について（LiDAR スキャナ）



アイコンより、iOS の LiDAR スキャナを活用して、間取りのデータ作成ができます。

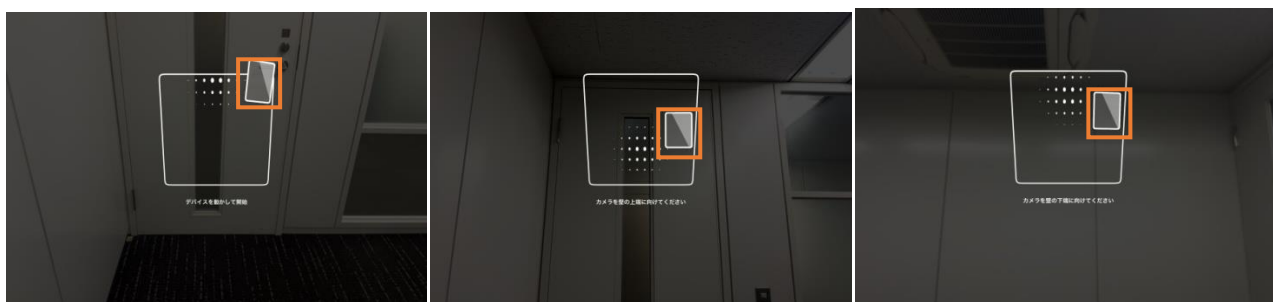
※「スキャン取り込み」は、iPad Pro または、iPhone Pro でご利用いただける機能となります。

■LiDAR とは？

LiDAR とは「Light Detection And Ranging」の略で、レーザー光の反射を利用して、対象物の距離を測定し、3D モデルデータを生成する技術です。

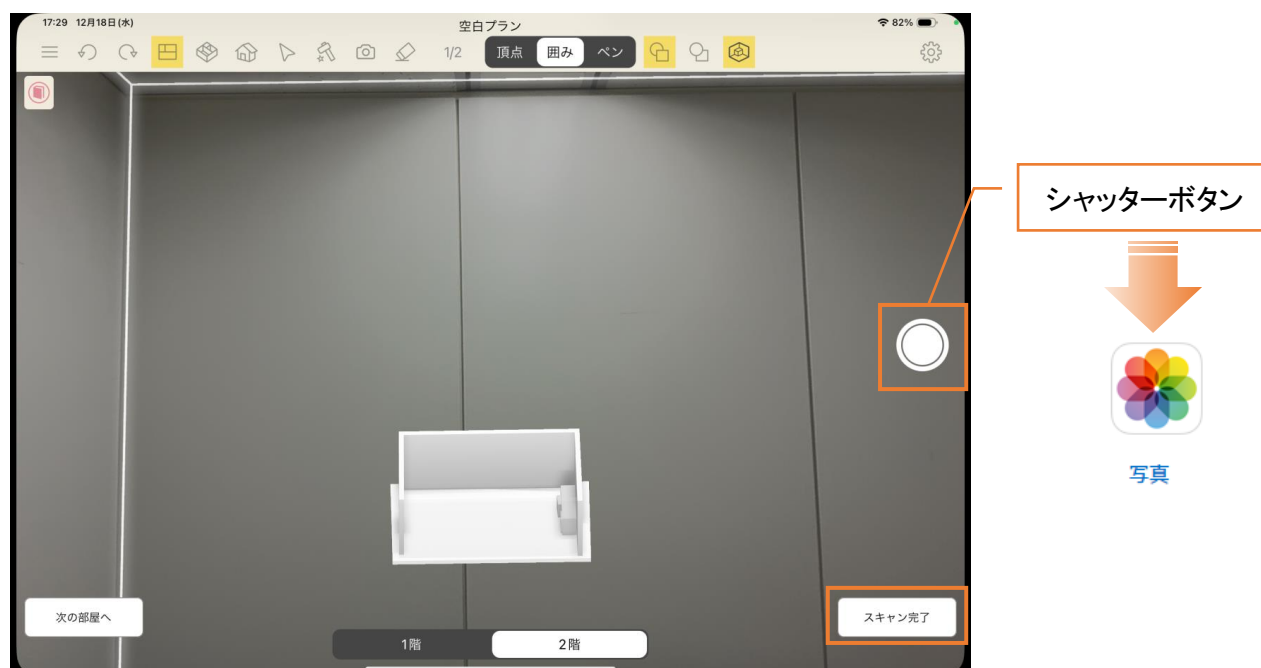
■LiDAR スキャナの基本操作

「デバイスを動かして開始」と表示されたら、画面内の端末の動きに合わせてデバイスを上下に動かします。

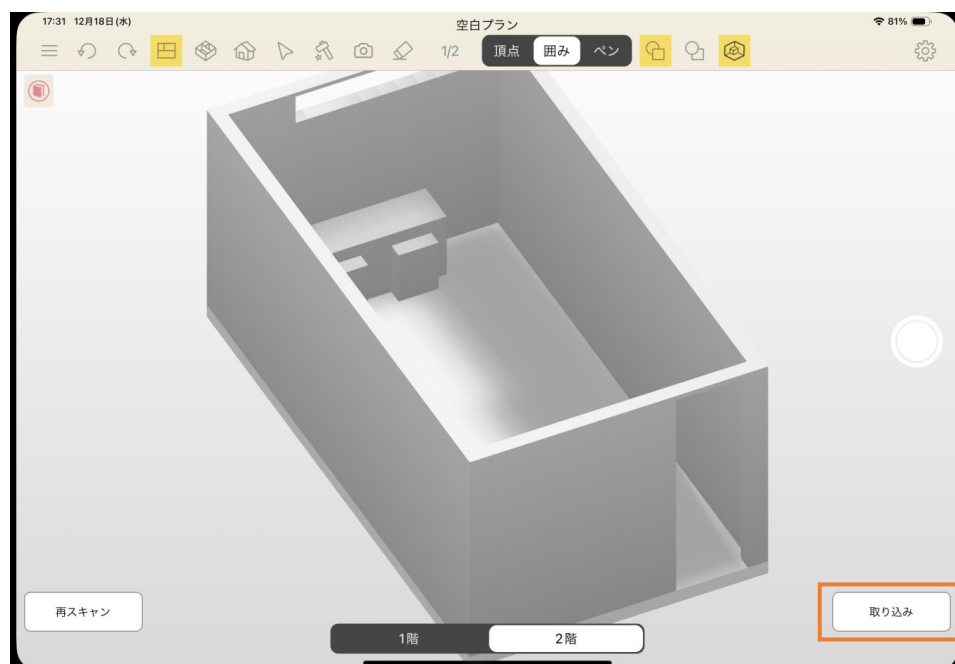


スキャン中に白い線が表示されますので、床や天井、壁、建具などを認識させていきます。
スキャン中に、「シャッターボタン」を押すことで、スキャン中の状態をカメラロールに保存できます。

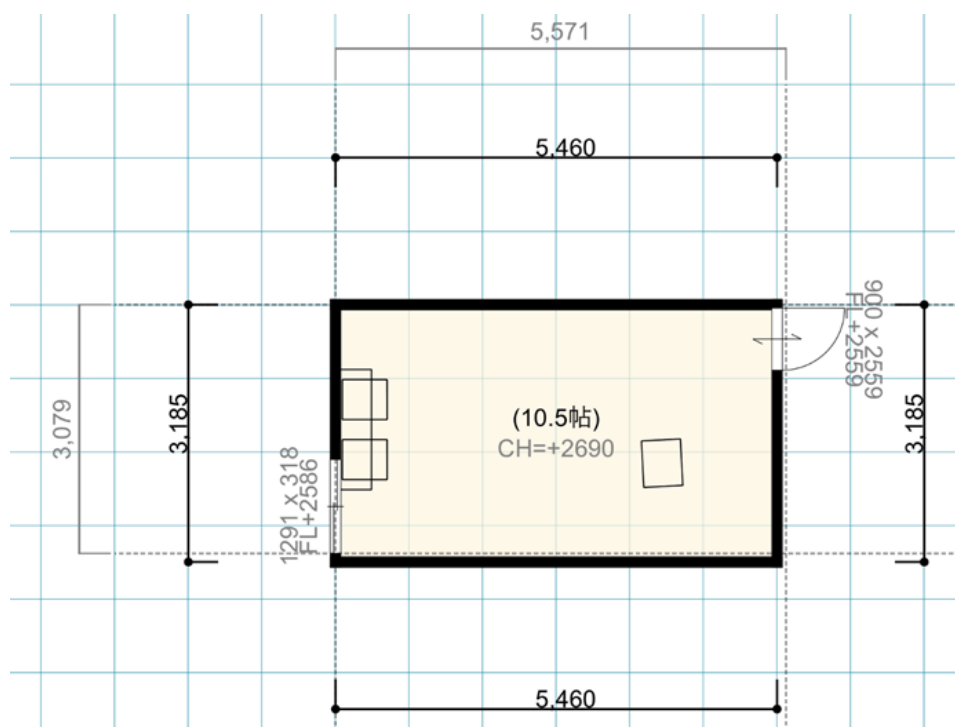
スキャナで部屋全体を計測後、「スキャン完了」を行うと、3D モデルデータが作成されます。



3D モデルデータを確認後、「取り込み」を行うと、間取りデータに生成されます。



取り込み後、生成された間取りデータと LiDAR の計測寸法などが表示されます。



■1 部屋をスキャン取り込みする場合

「スキャン取り込み」機能を実行すると、以下のダイアログが表示されます。



対象外のデバイスの場合、ダイアログは表示されず、以下のメッセージが表示されます。



モジュール:

リストより選択ができます。手入力も可能です。

グリッド補正を行う:

リストより選択ができます。

グリッド補正を ON にすると、スキャンした座標を指定したグリッドに近い位置に補正されます。

OK:

カメラが起動し、スキャンを開始できます。

カメラアクセスの許可を求められた場合、「許可」を選択してください。



既に間取りデータが入力されている場合は、以下メッセージが表示されます。

※スキャン時に取り込み階層の指定ができます。



キャンセル:

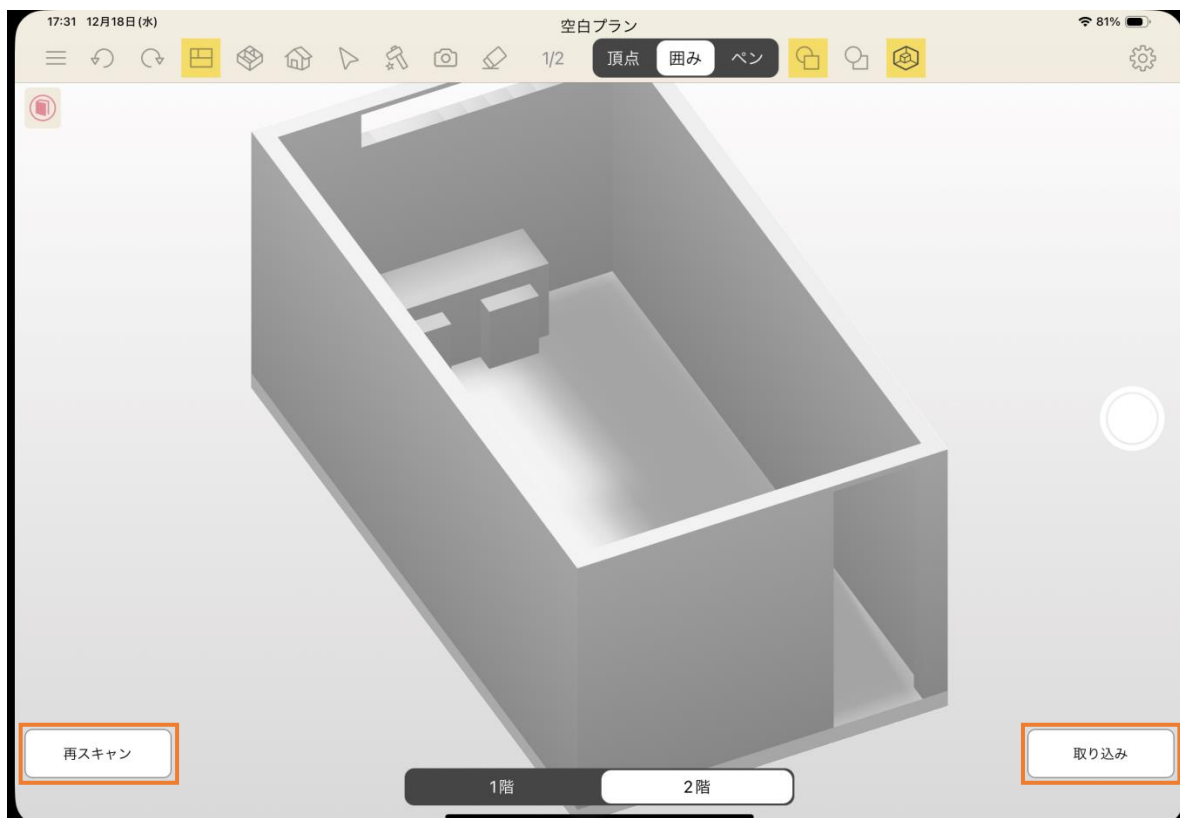
「スキャン取り込み」機能を終了します。

「LiDAR スキャナの基本操作」を参考に、部屋全体をスキャンします。

スキャン完了後、「スキャン完了」→「取り込み」をタップします。

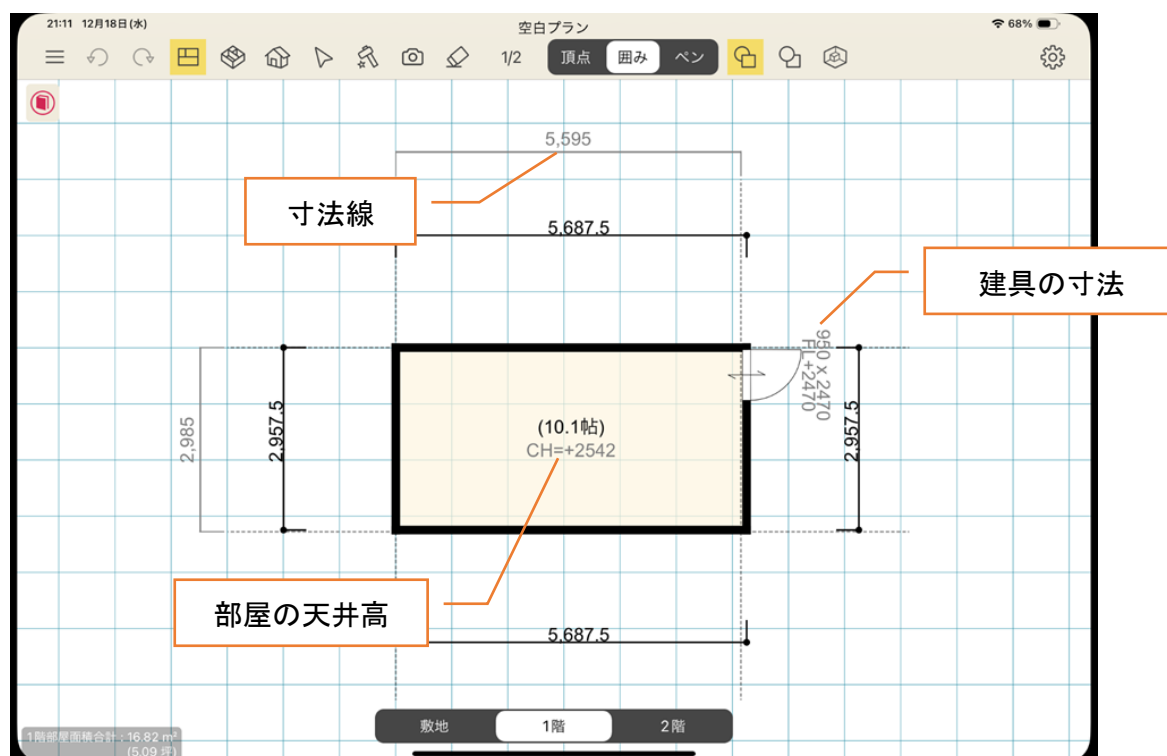


※スキャンのやり直しをする際は、「再スキャン」をタップします。

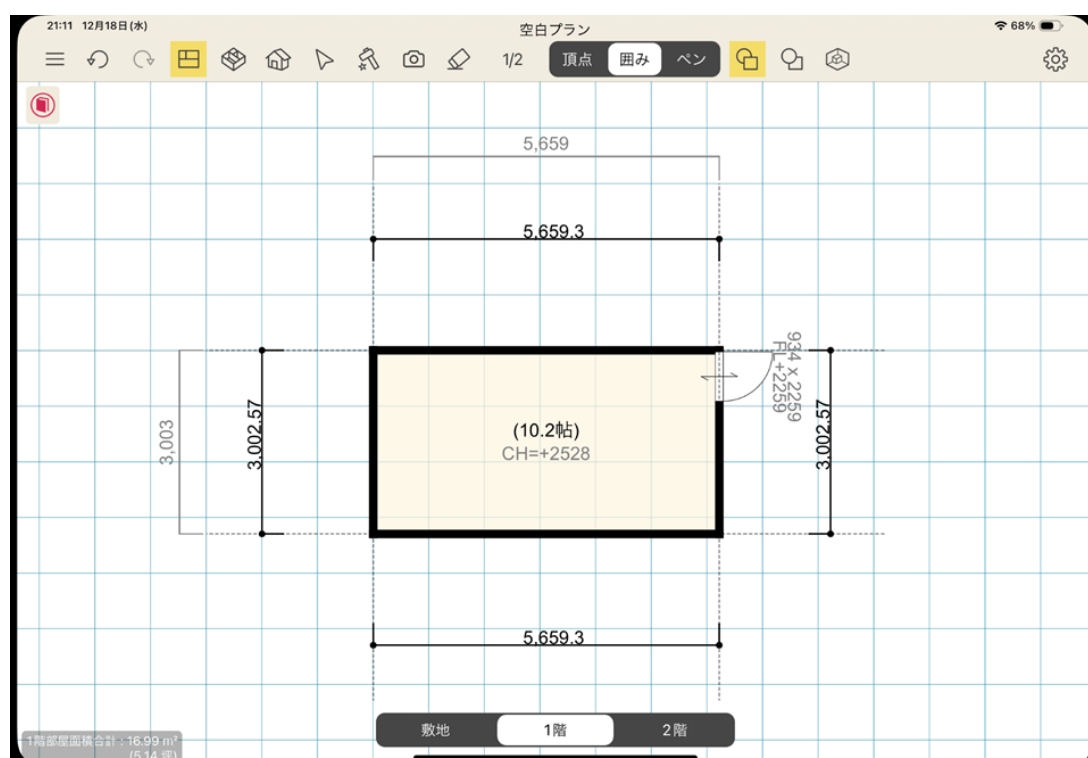


スキャン取り込みが完了すると、左上を配置基準とし間取りデータが生成されます。
 LiDAR スキャナで計測した寸法は、グレー色で表示されます。(部屋の天井高、寸法線、建具の寸法)
 スキャン時に認識されたオブジェクト(テーブルなど)は、矩形要素で生成されます。

(グリッド補正あり)



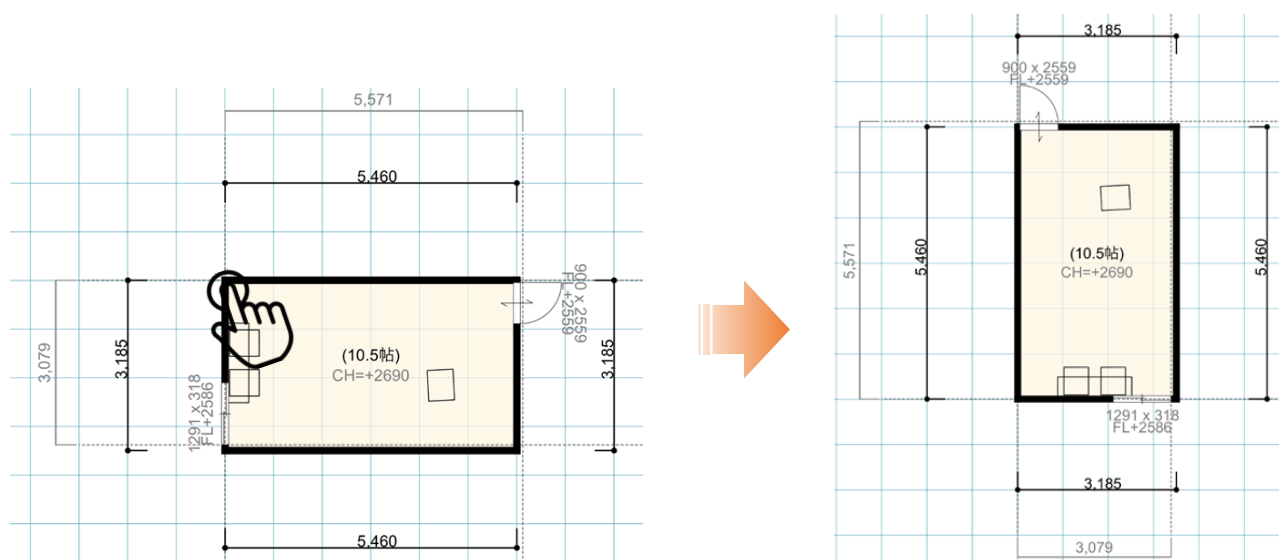
(グリッド補正なし)



生成された間取りデータの方向を変更したい場合は、メニュー「建物回転」を使用してください。



回転角度を指定して、基準点をピックすると回転することができます。

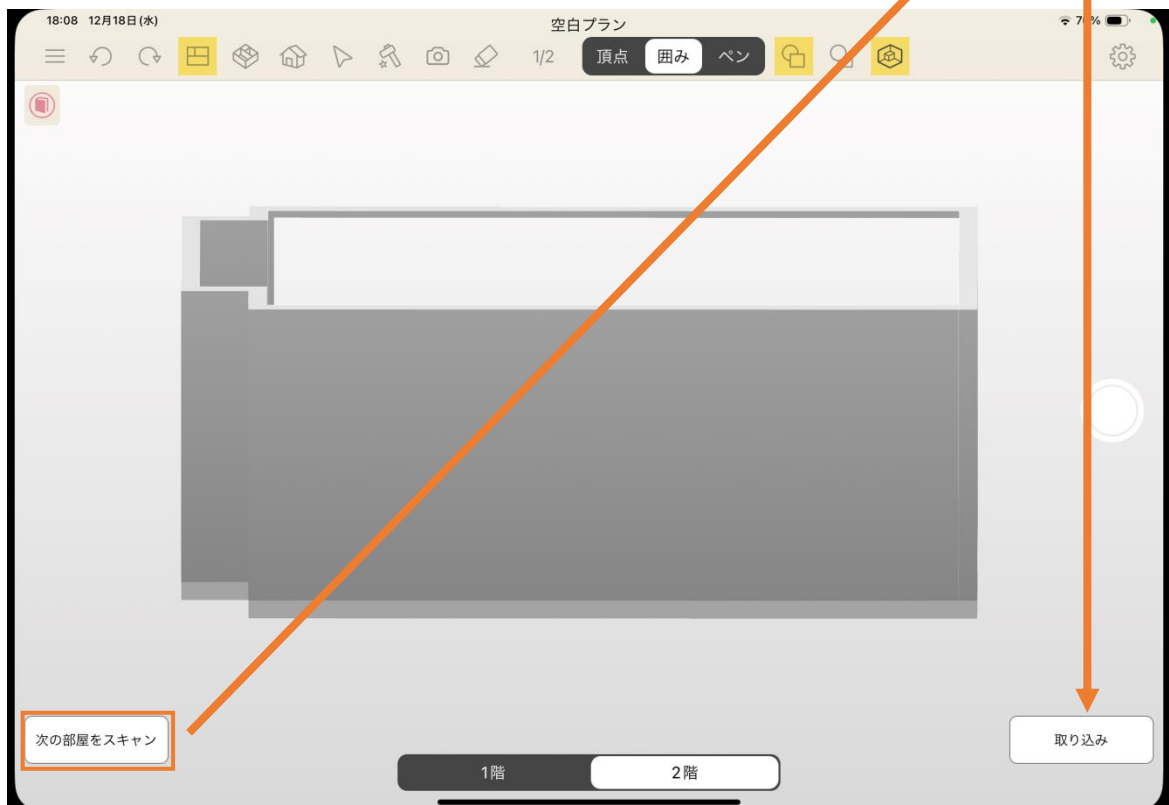


■複数部屋をスキャン取り込みする場合

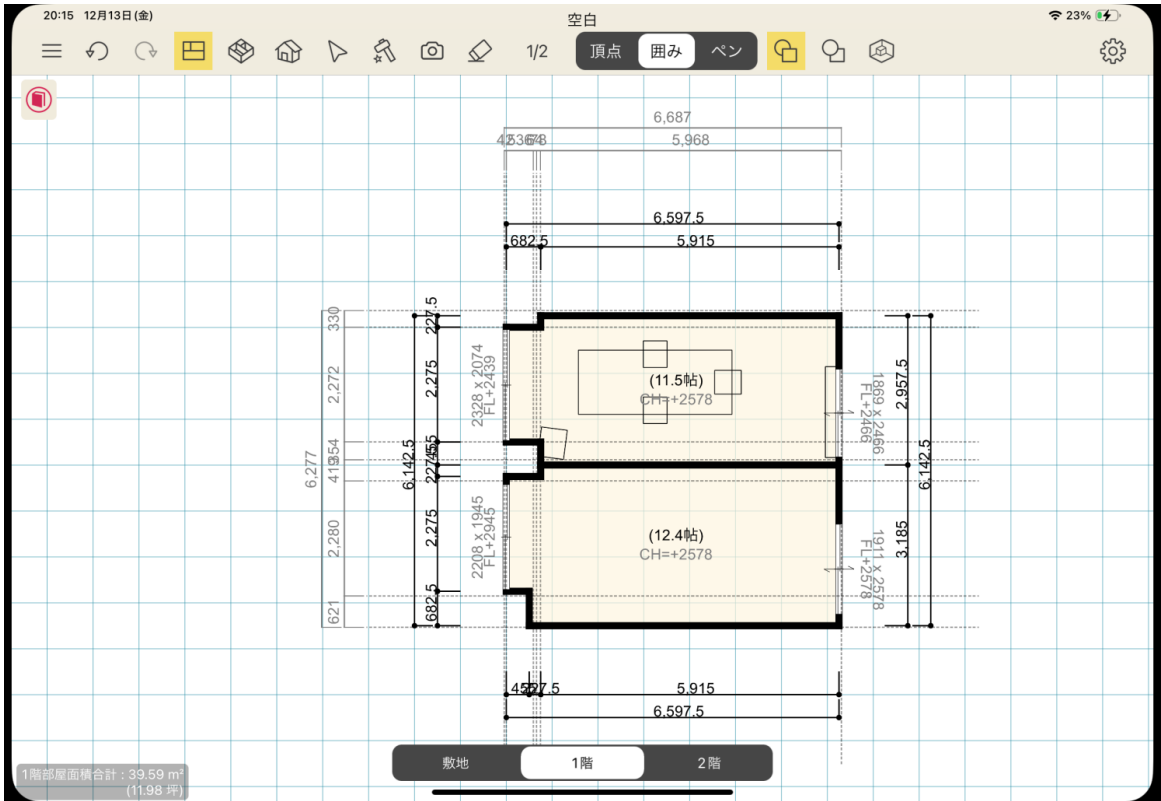
基本操作は、「1 部屋をスキャン取り込みする場合」と同様です。

「次の部屋へ」→「次の部屋をスキャン」をタップすると、スキャンが開始されます。

全部屋のスキャンが終わりましたら、「スキャン完了」→「取り込み」をタップします。



複数の部屋を対象に、間取りデータを生成することができます。



Chapter 5 よくある質問

5-1 動作環境に関する項目

- 対応機種・対応 OS に関して
本アプリケーションは iPad、iPhone でご利用頂けます。
また動作環境として iPadOS17.0 以降が必須となります

5-2 操作全般に関する項目

- 辞書サムネイルをタップした際に反応が鈍い場合がある

辞書サムネイルはドラッグ&ドロップに対応しているため、
タップしても反応しない場合は、ドラッグ&ドロップと認識されている可能性があります。
短めにタップすることで通常のタップと認識されますので、
お試しください。

- 間取り入力画面／3D パース画面において、表示をリセットしたい
各選択中の表示モードと同じアイコンをタップすると、再描画が行われ表示がリセットされます。
表示や入力の動作がおかしい場合は、お試しください。



Chapter 6 商標・著作権

本書に記載されている商品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

※Walk in home シリーズは、株式会社 DTS の開発製品です。

Walk in home は、株式会社 DTS の登録商標です。

Walk in home プランにゃ〜は、株式会社 DTS の登録商標です。

※Mac、iPhone、iPad および APP Store は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

※iOS/iPadOS の商標は、米国 Cisco のライセンスに基づき使用されています。

※Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他商標は全て、それぞれの所有者に帰属します。